

ブダ (BUDA)

作 中野 守

登場人物

医者

ピート

エルジエーベト

店長

ヤスミーナ

ミルカ

コルシツキ

デリー

ハキヤ

ハシンブラ

カラムスタファ

トルコ兵1

オイゲン公

ソビエスキ

オーストリア帝国役人

看守

裁判長

市民1

市民2

吉宗

明転。舞台は十七世紀のブダ(現ブダペストの一部)にある小さな大衆酒場。舞台奥にはドナウ川が流れていて、対岸にペストの町が見える。上手にカウスターがあり黒いコートを着た男が酒を飲んでいる。下手には民家があり、扉が閉まっている。ひとりの男とひとりの女が左右から登場して中央で見つめあう。男は四十歳位で名前はドラゴン。女は三十五歳位で名前はヤスミーナ。ヤスミーナの頬をいきなり殴る。

店長 痛え！ 何すんだよ。

ヤスミーナ 何さ、人の気も知らないで。

店長 は？

背広を着てリュックを背負った男、コルシツキ登場。ふたりの喧嘩を見つめ、止めようとしたり、自分の存在をアピールしてみるが、ふたりには気づかない。

ヤスミーナ こんな侮辱受けといて、黙ってられる訳がないじゃないか。え？ いつ私か他の男と遊んでた？ 言ったんさいよ。ほら、ドラゴンさっき言ったじゃないの。尻軽女？ 浮気性？ いつ私がそんな軽い女に見られるようなことをしたのか。さあ、はつきり、いつ、何処で、誰と、何をしていたのかを。

店長

最初から、…生まれてオギャアと産声上げた瞬間からその気があつたんだろ。その体の中にうじゃうじゃ浮気の虫が棲んでいるんだ。知り合つた頃はいかにも純情ぶつてよ。男ひとりじゃやってけないならやってけないで、言ってくれりゃよかったんだ。そうしたらこつちだつて応じようがあるつてもんだ。考えたら、こぶ付中年親父に純情でいい女なんて現れるわけないんだからなあ。俺もそのまま騙されていればよかったつてか。あーあ、精々純情面してくれ。純情なんて単語安っぽい売春小屋

でも使つてらあ。

ヤスミーナ もう一回ぶたれたいの？

店長 おお怖。その暴力性が本性なんだろ。

コルシツキ やめるよ。二人とも。

店長 止めるな。全く、第一印象と内面のギャップの大きさにはすっかり騙されちゃいましたよ。

ヤスミーナ ドラゴンだつて私のこと理解してと思つてたよ。

店長 理解してるとじゃねえか。今述べた通りだろ。

ヤスミーナ 全然理解してないじゃない。勝手なことばかり言つて。

コルシツキ 取り敢えず、喧嘩の原因は何なんだよ。

ドラゴンとヤスミーナ、一斉に喋る。

コルシツキ 一遍に言つた。

店長 こいつが客を取つてた。

ヤスミーナ さっきからあることないこと言つて。何を根拠にそんな。

店長 根拠？ これだよ。この両の目が、おまえが他の何処の馬の骨とも知らん奴にこうして腰を抱かれて。

ドラゴン、ヤスミーナの腰に手を回す。

ヤスミーナ 気安く触るんじゃないよ。

店長 説明してんだろ。こつして昨夜ドナウのほとりを歩いてるのを見たんだよ。

コルシツキ そうなのか？ ヤスミーナ。

ヤスミーナ どんな状況で、どんな事情

があつて、どんな会話してたかも知らないくせに。

店長 ああ、知りたくもねえ。

コルシツキ 別に男と歩いてたくらい構わないだろ。

店長 手、回してんだ。

コルシツキ いいじゃないのさ、ドラゴン。それくらい目を瞑る器がないと、ヤスミーナさんとはやっていけないぞ。おまえも、他の奴に腰に手を回されたのが許せないなら、やり返せばいいだろ。おまえも他の男に手を回してもらつて。

コルシツキ、店長の腰に手を回す。店長、振り払う。

店長 気色の悪いことするんじゃないやねえ。男と女、二人つきりだしかも酒。上等なお膳立てじゃねえか。え、酒飲んで何も起こらねえなんて言えるか。幾ら理性が強かつたつて、幾ら相手が所帯持ちでもそんなことはアルコールが入りや関係ねえ。他にステディがいたつて妖しい気持ちに誘惑されちまうのが酒つてもなんだよ。今、俺は姑みたいな細かいこと言つてると思うよ。でも、そういう男なんだ。気短しいし、器小さいし。だがな、ヤスミーナ。俺はおまえのこと籠の鳥の様に愛してる気持ちは毛頭ねえ。あれもするな、これもするなつて言つてるわけじゃね

店長

があつて、どんな会話してたかも知らないくせに。

えんだ。だけどよ、それは最低のモラルって奴じゃねえのか。おまえには最低のモラルがねえのか。それとも、俺の存在なんて、子持ち中年親父なんてどうでも構わないってか。

ヤスミーナ そうは言っていないじゃない。私のはあんたも好きだし、あの娘のことだって本当の娘以上に可愛く思える…。

店長 じゃ、何故昨夜居なかった？おまえにとつて関係のない日だったからだろ。

ヤスミーナ え？
コルシツキ あれ？忘れてたのか？ドラガンの誕生日。

店長 コルシツキ、こんなもんだよ。こついうもんなら、俺の誕生日なんかよりその男と会うことの方が大事だったんだ。

ヤスミーナ あれは…、その、あの人はいるとお世話になってるし。そのどうしても断れなくて、でもそれは、あの人は忙しい人で、その日しか都合つかなくって、中途半端な態度でできない。…そう、ビジネスだからよ。
店長 それで俺に対しては適当と。
ヤスミーナ そうじゃないだろ、わかっ

てよ。
コルシツキ そうだよ、馬鹿だなあ、ドラガン。それはそれだけおまえのこと特別扱いしてることじゃないか。
店長 特別だよ、誕生日も忘れてしま

コルシツキ …はいはい、二人とも、そんな野暮な痴話喧嘩よりも

店長・ヤスミーナ 野暮な痴話喧嘩？

コルシツキ それより、え、ほら。この俺がこのくそデンジャラスなブタの町にわざわざウィーンからたった一人で店まで閉めてやってきたんだ。ウィーンで俺が無事だったことを祝ってくれな

きゃ。なあ、店長。え？何も聞いてくれないの？薄情だねえ。じゃ、自分で聞いてちょうよ。えー、コルシツキさん。ウィーンはそんなに凄いですか？

…現場のコルシツキです。そりゃ、凄いの何のって、だつてあんなトルコだぜ。あの不敗神話を築いたオスマントルコが攻めてきたんだぜ。いやあ、あの時はまさにウィーンは死の崖つ淵つて感じだったなあ、そこのお客さん、口開けてないで聞いてよね。とにかく、街の城塞の周りをトルコ軍の軍が囲んだんだ。外界とのルートも全て遮られ、食糧という食糧がウィーンから姿を消し、え、中には猫の肉喰らってる奴もいたつてんだからなあ。まさに四面楚歌つて、全然聞いてなかったら。

ヤスミーナ そんなこと、どうだつていいじゃない。
コルシツキ ヤスミーナさん、そんな言い草ないだろ。自分の店ほつたらかしてまで、わざわざウィーンから。

店長 たかりに来たんだろ。

コルシツキ あのなあ。二人のこと思つて仲裁までしてるつていうのに。

ヤスミーナ 誰が頼んだ。

コルシツキ 取り敢えず続きを聞いてくれ。で、ウィーンはもう墮ちるつてところまで墮ちたんだけど、これが遂に到着した連合軍のお陰で形勢は逆転。それでトルコは、あの不敗神話のオスマントルコはというと、…その前に乾杯だ。

店長 何だそりゃ。
コルシツキ いいからいいから。

コルシツキ、カウンターの中に勝手に入つて、酒とグラスを2つ取る。

店長 おい、また勝手に人んちの酒を。コルシツキ いいから。さあ。

コルシツキ、二人にグラスを渡す。コルシツキはラッパ飲み構え。

コルシツキ この私、コルシツキ様の無事を祝つて。

ヤスミーナ 誰が。

コルシツキ あんたとあんたが。

ヤスミーナ 何で。

コルシツキ 生きて嬉しいだろ。

ヤスミーナ そんなことないけど。

コルシツキ またそんな憎まれ口叩いて。よし、じゃあ、このコルシツキ様の無事を祝つて。

三人 乾杯！

三人、グラスを口にした状態で静止。舞台奥、川の土手にトルコ軍総司令官カラムスタファ、トルコ兵ハキヤ、女性トルコ兵ハシンブラ登場。

ハキヤ 完敗です。第二部隊に総攻撃をかけられ部隊は壊滅。隊長ムラト様も絶命なされました。最早、我々に勝利はなきものと。

ムスタファ ならぬならぬ。このまま敵に背を向け逃げるのが許されると思ふのか。ハキヤ。その程度のこと根を上げるなど僕は失望したぞ。

ハキヤ ですが。

ムスタファ どの道、逃げて都に戻つても、皇帝に首を切られるのがオチ。ならば前を見る。ふん。邪教の徒に負けを喫するようなオスマントルコではないわ。ウィーンの皆にトルコの旗を掲げよ。アラアの神がついておる。こは聖戦ぞ。

ハシンブラ ご報告申し上げます。現在我が軍総勢三万を割つたと。ウィーン到着時の実に4分の1しか残つてません。迷つてる暇はありません。もう一度ブタまで戻つて体勢を整えないと。

ハキヤ ムスタファ様。

大勢のウィーン市民登場。中にはポーランド王ソビエスキ、フランス人オイゲン公の姿もある。

民衆A カーレンベルクの丘に灯が点つたぞ。

民衆B 凄い数だ。

民衆A 連合軍が来てくれたんだ。

オイゲン公 トルコは今一箇所に密集している。ウィーンの森の中を三方から攻める。ただし逃げ道は開けておくんだ。今は敵への攻撃より市民の安全の確立の方が大事だ。決して深追いはするな。

公の部下 かしこまいました。

ソビエスキ オイゲン公、よくやってくれた。これでウィーンも大丈夫だろう。

オイゲン公 ですが油断は禁物です。それより王様こそよく間に合ってくれました。これで戦況は逆転すると思います。

ソビエスキ これを機にトルコを更に南へ退けよう。いつかはバルカン半島からも追い出すのだ。この戦いはそのプレリユードだ。民よ、畏れるな。

オイゲン公 さあ、我々も参りましょう。前線で將軍が王の来るのを待っていますから。

市民達去る。

ハシンブラ キリスト教徒連合軍、指揮はポーランド国王ソビエスキ。オイゲン公の軍と合流したようです。ムスタファ様いかがなされますか。

ムスタファ …退く訳に、今更退く訳にはいかぬ。同じ死ぬなら戦って、

アラアの戦士としての誇りを抱いて死ぬ。ええい、退くな。全てはあの男が運命を変えてしまった。例えばトルコが負けても、あの男だけは見つけてケリをつけてやる。

トルコ軍退場 店の三人が動き出す。

コルシツキ ぶはあ。

店長 飲んだ分は請求するからな。

コルシツキ 一気に味が変わった。

ヤスミーナ そのうちもっと美味くなるさ。私達にとっちゃね。

店長 そうだな。

コルシツキ どうして？

店長 そりゃだって、自分の国で酒が飲めるんだ。支配するものも無い、自分達の国ハンガリーで。

ヤスミーナ と言っても、あんたはウィーンの間人だからピンと来ないだろうけど。

ドラガンしかし、思えば50年の屈辱か。

コルシツキ 大袈裟な。

店長 大袈裟なもんか。俺の爺さんのそのまた爺さんから聞いた話では、時にはその川が真つ赤に染まったってんだから。

コルシツキ タ陽で？

店長 血で！ それだけ俺達マジャール人はトルコに虐げられてきたんだ。

コルシツキ ドナウ川がね。その頃はトルコは今より遙かに強かったんだ。

店長 …そして一五〇年経ってトルコは

初黒星。ヤスミーナ でもウィーン包囲を撃退しただけじゃないのさ。トルコはすぐに体勢を立て直して、奪い返しに来るだろうさ。今のうちにもっともっとトルコを攻めるんだよ。トルコ人皆殺しにしてても。

店長 ヤスミーナは、トルコ軍に家族を皆殺しにされたんだ。トルコ軍の水牛の紋章を持つ男に。

店長 ヤスミーナ 水牛の紋章。私の父さんが残した最後の言葉。全てはあの男が運命を変えてしまった。

コルシツキ 水牛の家紋？ それだけの手がかりでトルコ何十万の兵の中から探し出すのか？ そんなの雪山で氷砂糖探すよようなもんだぞ。

店長 こんなデリカシーない奴はほつといて二人でおぶくるさんの敵を討とう。

コルシツキ てめえら、さつき喧嘩してたんじゃねえのか。そういう時だけ団結してよ。ったく悲しいねえ。折角よドラガン、おまえのために誕生日祝い持って来たっていうのにねえ。ああそうかいそかい。

店長 先生、お酒のお代わりいかがでしょう。

コルシツキ 声を変えるな。

店長 ミルカ。

カウンターの奥からドラガンの娘のミルカ登場

店長 ひとり娘のミルカだ。

ミルカ はあ。あら、こちらの社長さんなかなか渋くていい感じ。

コルシツキ どういう教育してんだ。いやでも親に似ずいい子そうじゃないか。

ミルカ 初めまして。娘のミルカドナーウィバーです。ミルカって呼んで下さい。

店長 店長のドラガンドナーウィバーです。

コルシツキ おっさんはいいいよ。一緒に飲まない？

ミルカ うん。でもあっちのお客さんもいるし。

コルシツキ あの酔っ払い。この辺じゃ見かけない顔だな。

店長 南から来たらしい。

コルシツキ 怪しいな。盗賊じゃないのか？

ミルカ 人を見かけて判断しちゃ駄目だつて、死んだ爺ちゃんの息子さんが言ってた。

店長 …って、俺じゃねえか。

ミルカ …時には外見と全く正反対ってこともあるもんねえ。ほら、いい例がウィーンで荒稼ぎしてるコルシツキって男。貧乏丸出しって格好のわりに凄い大金持ちなんだって。

店長 …実はこいつがコルシツキなんだ。

店長 …

店長 …

ミルカ 先生。お酒のおかわりいかがですか？

コルシツキ いい教育受けてるな。

ミルカ へえ、あなたがウィーンの商才と呼ばれたコルシツキさんか。

ヤスミーナ それで一体何売って大当たりしたのさ。

コルシツキ それそれ、持ってきているんだ。おまえさんの誕生日祝いだ。おまえさんでも、要らねえか。

店長 お師匠様。

コルシツキ プライド低いとこ、親子そっくりだな。こいつなんだが、まだこのブダの町じゃ出回ってないシロモノだからな。ほら。

コルシツキ、リュックから袋を取り出し、テーブルに置く。

ヤスミーナ 黒くて、豆みたいだ。

店長 何だ黒豆か。

コルシツキ ひねれよ。

ミルカ これって珈琲豆じゃない？

コルシツキ よく知ってたな。そう、こいつを粉にして煎じて濾して飲むと何と眠らなくてもOK。もう朝までガンガンさ。こいつはやめられないぜ。

ヤスミーナ その言い方別のもの想像する。しかし、こんなの一体何処で手に入れたのさ。

コルシツキ ウィーン包囲中のトルコ軍陣營のテントの中で。

ミルカ 命知らずね。

コルシツキ トルコ人って珍しい物を沢山持ってるんだ。その時はまだ

こいつが何に使うか知らなくて。でもこいつが飛ぶように売れて、今じゃ昔の貧乏が信じられないくらいに大金持ち。

店長 アホなのに凄いな。

ミルカ アホって。お父さん。コルシツキ様に向かってアホって。いい、この方は例えるなら十七世紀に舞い降りた商いの神、ヴァスコ・タガマなんだから。

店長 誰それ。

ミルカ インド航路を発見して胡椒を持ち帰ったヴァスコ・タガマじゃない！

突然、波の音と夕焼け空。

ミルカ ねえ。どうしても行ってしまふのね。

コルシツキ ああ、ヴァンローミューディアスさんの航路を更に行く

と必ずインドに辿り着くはずなんだ。現地に行けば胡椒も安く手に入るからな。船に積めるだけ積んで、無事帰って来たら、二人は大金持ちだ。億万長者さ。ミルカ 二人の幸せのため？

コルシツキ ああ、そつだ。

ミルカ 本当に生きて帰って来るのね？

コルシツキ 約束するよ。

ミルカ インドの美女と浮気しないでね。

コルシツキ 信じていいよ。

ミルカ 約束したんだから。きつと、きつとよ、ガマア！

コルシツキ 夫婦でガマはないだろ。君

もガマじゃないか。

ミルカ じゃ、タ！

コルシツキ タって言つたよ。

ミルカ 必ず生きて、タ！

コルシツキ ヴァスコって呼べよ。

ミルカ ター！

店長 何やってんだ！

波と夕焼け解除

コ・ミ ヴァスコ・タガマって。

ヤスミーナ それよりミルカちゃん、さつきからずっとあの人独りだけどいいの？

ミルカ あ、忘れてた。

ミルカ、小走りでカウンターのの中へ入る。ドラガン達は中央で雑談を続けている。

医者 酒

ミルカ お客さん、かなり飲んでるよ。

やめた方がいいって。こんな昼間からガバガバ飲んで。ねえ、見たことない顔だけど、よそから来たの？ どの町から？ ねえ。あ、名前も聞いてなかったわね。一体何してる人なの？ 仕事よ仕事。その身なりだと貴族じゃなさそうだし、商人？ にしても胡散臭いし。まさかトルコ人間じゃないでしょうね。最近ウィーンから逃げたトルコ兵が盗賊になっっているんだ。さつきから何で黙ってるのよ。

何かひとつくらい答えてよ。それとも記憶喪失なんて流行らないこと言うんじゃないでしょうね。口が利けるなら何か言いなさいよ。

医者 喋る暇がないんだ。

ミルカ あら、ごめんなさい。…ねえ。

医者 酒をくれ。

ミルカ 大丈夫なの？

医者 金の心配なら要らない。

ミルカ 体を心配して言ってるの。

医者 …お嬢ちゃんはこの店の子か

ミルカ …い？

ミルカ そうだけど、お嬢ちゃんはないんじゃない？ もう18になるんだからね。

医者、一心不乱に酒を飲んでいる。

医者 何か言ったか？

ミルカ いいえ。ねえどうして飲んでるの？

医者 飲みたいからさ。

ミルカ どうして飲みたいの？

医者 その割には随分な量だけど。ねえ、どうして飲み足りないの？

ミルカ …歯の生え変わる頃っていうのは好奇心旺盛なんだそつだ。

ミルカ やな男。

ジプシーの男登場。名前はデリー。

デリー よう、奇遇だな。

医者 …あんたか。確か…。

デリー デリーだ。まさかこんな所で会

うとは。すまないけど俺にも同じものをくれないか。

ミルカ はい。ねえ、この人のお知り合いなの？ だったらあなたからも言ってくれない。いい加減、体を壊すわ。

デリー 医者の不養生か。あんたの素面を見たことがない。量が過ぎるんじゃないのかな。

医者 説教ならよそでやってくれ。そんなに辛いならいっそ、医者なんてやめちまえばいい。俺達

デリー はジブシーだ。

デリー ……わかったよ。もう言つまい。ねえ、ちょっと聞いてよ。この人私のこと子供扱いするのよ。何とか言ってみてよ。十八の女って言えばもう一人前よね。

デリーを睨む医者

ははは。そんなこと気にしてるのか。ま、でも、こいつにそんなこと言ったって仕方ないさ。自称人間嫌いには女の魅力も形無しかな。おっと時間だ。先生、また会おう。それ以上酒やらんでくれ。

ミルカ うん。

デリー、去る。

ミルカ さっきの質問答えてよ。あなた

は一体何者？

医者 医者だよ。放浪中の。

ミルカ 放浪中？

医者 物心ついた頃には既に南の国で軍医として働いてた。尤もその軍もトルコに滅ぼされて。今は旅をしながら町に寄っては患者を診て。そうこつこつしている間に

ミルカ ブタに着いた。あてはあるの？

医者 いいや。でも何となく。そう、臭いに誘われてね。美味そうな酒の臭いと、死の臭い。この町は病人で溢れている。おかげで暫くは酒代にも困らないがね。

ミルカ なんかいやな感じ。

医者 けど、この町には治せない患者も多い。

ミルカ 治せない？

医者 栄養失調だ。食う物さえあれば助かるという患者を何人も診てきた。今日もひとり死んだ。僕は何もしていない。医者として何も、自分の無力さを感じるとき、君ならどうする？

ミルカ 飲む。

医者 そう飲む。もう一度患者を治す自信とやる気を取り戻すまで飲んで…

ミルカ でもそんなに飲んだら、あなたが病気になる。

医者 壊れたいんだよ。誰かに僕を壊してもらいたいんだよ。へへ。それで現在酒にとり憑かれてる

ミルカ 家族は？

医者 いない。

ミルカ 淋しくないの？

医者 人間は嫌いだ。興味がない。

ミルカ そんな感じね。周りの人も近寄りにくそう。

医者 君もか。

ミルカ 正直無理して喋ってる。

医者 ふん。

ミルカ こういふ商売では駄目なことだ

医者 無理にか。あの人もそうだったんだらうな。

ミルカ あの人？

医者 ……

店長 若いねえ。いやあ、コルシツキ大明神。ご代前半のような飲み

ミルカ ぶりだあ。

コルシツキ ウィ。ヒック。ためえらに

一言、あ一言忠告しておく。い

いか、ケツの穴がっぼじってよ

うく聞けよ。

店長 大明神。耳の穴ツス。

ミルカ 嫌い！ ソウリムシ。お医者様、外行つて冷まそうか。

ミルカ、医者を出る外に連れて行く

コルシツキ ただ今、ご紹介を預かりま

した、ソウリムシです。単細胞

です。

ヤスミーナ やれやれ。

コルシツキ ヤスミーナ、ためえ、すじ

やねえか。やい、ドラガン、飲ませる。

店長 おまえ酒入ると人変わるな。

コルシツキ 煩い。いいか、忠告してお

こう。酒は飲んでも飲まれるな。

ヤ・ド ためえだ。

外にはベンチがあり、ミルカと医者はそこに腰を下ろす。医者、川を見ている。

医者 丁度こんなドナウのほとりだった。その時は夜だった。今日み

たいに患者を亡くした日だね。酒も覚えてなくて。こうして川

に向かつて。

ミルカ 男泣き？

医者 ああ。そんな時その人は現れて

ね。僕の隣に腰を下ろした。

ミルカ ……

医者 僕にハンカチを差し出してこう

言っただ。どうして泣いてるの

か存じませんが。

ミルカ どうして泣いてるのか存じませ

んが。

医者 悲しみがあるからこそ、幸せに

も気づくことができるんでしょ

うね。

ミルカ 臭。

医者 るさいなあ。

ミルカ で、その人とは？

医者 それつきり。

ミルカ じゃあ、それからはドナウ川を

見る度にその女の人を思い出し

て励ましにしているとか？

医者 臭。

ミルカ お互い様。

ミルカ 乳臭。

医者 失礼ね。

ミルカ でもそうなんだ。いつもこの川

見てると、あの人を思い出すん

だ。

デリー再び登場。

デリー 先生、大変だ！

医者 どうした、おまえの出番はさっきので全部終わらだろ。

デリー そんな訳ないだろ。それより、ほら、川に人が。

ミルカ 泳いでる？

デリー 流されてんだよ。

ミルカ 私、お父さん達呼んで来る。ミルカ、店に戻る。店長とコルシツキはその間かなり飲んでいた様子。

ミルカ お父さん、大変よ！

ドラゴンお父さんも大変だ！

ミルカ 何へれけになってんのよ！

店長 へべれけって、ミルカはそんな難しい言葉知ってるのか。

コルシツキ 今晩は赤飯だな。

ミルカ 何言ってるの。

ヤスミーナ どうしたんだい？

ミルカ あ、ヤスミーナさん、川に入

が！

ヤスミーナ わかった、すぐ行く。…ちよっと、あんた達も来るのよ。

コルシツキ ええ？ 俺、客だぜ？

店長 俺、店番。

ヤスミーナ そんなこと言ってる場合じゃねえだろ。

ミルカ 早くしないと若くて美人の女の人！

ド・コ そいつは大変だ！

店長とコルシツキ、勇ましく店を飛び出す。

出す。

ヤスミーナ あんた！

川の土手を上流階級の衣服を纏った若い男女が歩いてくる。男の名前はピート、女の名前はエルジエーベト。ピートは意識がなく、エルジエーベトが運んで来る。医者 去らうとする。

デリー 先生、あんたなら医者だから助けられるだろう。

医者 心中じゃないのか？ 川なんかに飛び込んで。

デリー 先生！

エルジエーベト 誰か、この人を助けて下さい。

医者 …まさか、エルジエーベト？

ミルカ この男の人息してないよ。こんなどうしたら？

店長 人工呼吸だ。

コルシツキ そうか、わかった。

コルシツキ、エルジエーベトを押し倒す。

店長 こら！ そつちじゃねえだろ。

コルシツキ 煩い。へへへ。怖くないからね。抵抗すんなって、おい。

無駄な足掻きを。

ミルカ 何やってんのよ、この変態中年コリラ！ こつちでしょ、ほら早く！

コルシツキ そんな趣味ないぞ。

ミルカ なくてもやるの！

コルシツキ 畜生、てめえ変な病気持つ

てないだろうな。

ド・ミ いいからやれ！

コルシツキ は！

コルシツキ、ピートに人工呼吸をする。

医者 よし、あとは僕に任せて、ベツドの用意をしてくれないか。

ヤスミーナ ドラゴン、奥の部屋勝手に使つよ。

店長 ああ。

医者 よし、じゃあ彼をベッドまでそつと運んでくれ。お嬢ちゃんは

その女性を。

エルジエーベト、ここで初めて医者の顔をはつきりと見る。店長とコルシツキとデリー、ピートを担いで店の奥に運び去る。

エルジエーベト あ。

医者と目が合う。

ミルカ しつこいわね、だから、ちゃん

じゃないって(二人が目を合わせているのに気付き)え？

デリー 先生、早く来てくれ。

医者 じゃあ頼んだよ。

医者、店の奥に去る。

エルジエーベト あの方はお医者様なのですか？

ミルカ そう言ってたけど、あんなベロベロに酔ってて大丈夫なのか

な。それよりどつして川なんか

に？

エルジエーベト トルコ軍に追われてたんです。

デリー お嬢さんの方は何ともなかったようだね。

エルジエーベト どうもありがとうございまして、先生。

デリー いやいや気にしなさんな。それよりあの男性、ピート…ジョル

ジエビツチさんでしょ？

エルジエーベト はい。

デリー いやあ、そうですか。ということは連合軍も近くまで…。あ、お嬢ちゃん先生にまたいつか飲もうって言つといってくれ。じゃ。

デリー、去る。

ミルカ あの人何なんだろうね。デリー

さんっていうんだけど。あ、私はミルカ。

エルジエーベト 私はエルジエーベト。

ミルカ でさ、トルコ軍から逃げて川に落ちたの？

エルジエーベト 川しか逃げる所がなかったんです。ただ、私はよかつたんですが、彼、カナツチなんです。泳げないのに私が無理矢理突き落として。

ミルカ なかなかやるわね。それでどの位流されたの？

エルジエーベト ウィーンからずっと…。

ミルカ ウィーン！？ そんな所から？

エルジエーベト いえ、ウィーンからずっと追われてて、一度はトルコ

軍に捕まったのですが、何とか抜け出してペストの町で川に。何だ、ペストか。向こう岸の町じゃない。……って、ペスト！？じゃあ、トルコ軍、もうそこまで来てるってこと？

エルジェベト、わざとらしく気絶。

ミルカ あ、ちょっと、しっかり！ ねえ！

川の土手をオイゲン公とソビエスキが歩いている。

オイゲン公 国王様。

ソビエスキ オイゲン公。どうだ。ジョルジエビッチ君達は見つかったか？

オイゲン公 いえ、やはりトルコ軍に捕えられたのでは？

ソビエスキ かも知れぬ。彼は、ジョルジエビッチ君はオーストリアを救った功労者だ。彼にもしものことがあつたら、余は皇帝レオポルド5世に合わす顔がない。

ポーランド国王ソビエスキ、一生の不覚。
オイゲン公 取り敢えず、將軍が探してくれています。しかし、ジョルジエビッチ君程の男がどうして簡単に捕まったりするのでしようね。

ソビエスキ ひょっとすると女に現を抜かしている最中のことだったのでは。

オイゲン公 それはわかり易く言うところ、ソビエスキ お天道様の高い時分にはちよつと恥ずかしくて言えないよ。うなことだとおつておるのだ。

オイゲン公 もう少し噛み砕いて言うところ？
ソビエスキ わざと言わせようとしてないか？ 要するに、ムフフ中だつたのでは。

オイゲン公 成程。そんなことはいいですが心配ですね。
ソビエスキ ああ、風邪を引いてなければいいが。

オイゲン公 何の心配してゐんです。
ソビエスキ いや、途中で連れて行かれ……。いや、ほら、もしかしたら川に逃げたとかいう可能性もあるだろ。

オイゲン公 それはあり得ませんよ。彼はカナツチだつて申してみましたから。さあ、他をあたつてみましょう。

オイゲン公とソビエスキ去る。店には意識を取り戻したピートと、店長、ミルカ、ヤスミーナ、コルシツキの姿がある。

ピート ひつくしゅん。

ミルカ やっぱり風邪ひいたか。でもそれくらいでよかつたわ。意識が戻らないんで一時はどうなるかと思つただけ。

ピート 助かりました。
ミルカ 礼ならお医者様に言つたほうが、ま、これでも飲んで温まっ

てよ。それよりさ、お父さん。さつきの話本当なの？

店長 店の中では店長と呼びなさい。普通ならもうとつとくに到着してなきやおかしいんだが。やはり襲われたとしか。

ヤスミーナ じゃあもう食糧ないの？ どうするのさ？ この人の話ではトルコ軍が対岸まで来ているみたいだし。これでフタに入つてこれらたら私達どうするのよ。次の食糧調達船、いつくるのさ？

店長 わかんねえ。わかんねえよ。何分、トルコ軍のせいで治安が行き届いてないんだ。わかんねえよ。

ヤスミーナ そんな。
コルシツキ ま、落ち着けよ。じたばたしたつて始まらないだろう。

ミルカ コルシツキさん、やけに落ち着いてるじゃない。

店長 そりゃそつさ。こいつん家は成金なんだ。いざつて時はウィーンに帰れば平和で豊かな暮らしが待ってるんだらうから。

コルシツキ 何言ってるんだ。俺、そんな薄情な男に見られていたとは。あ、シヨックだねー。悔しいねー。

ミルカ どつちにしたつて、全交通手段は奴らのせいで使えないから、ウィーンには帰りたいくても帰れないけど。

コルシツキ、激しく落ち込む。

店長 こらこら、何でそこで思いっきり落ち込むんだ。しかし、あんたも偉いときにフタに来たもんだ。名前は、何だっけ？

ピート ビート・ジョルジエビッチです。連合軍で働いてました。

コルシツキ 俺もウィーンの間でコルシツキって言うんだ。こつちはこの店の店長のドラゴンと娘のミルカちゃん、近くに住んでるヤスミーナさんだ。

ピート はじめまして。
コルシツキ 正直なところ、今、トルコとオーストリアつてどつちが強いや？ オーストリアか？

ピート ええ。はっきりとは言えませんが、軍の盛り上がりはそれ程凄いいもんで。私も全力を尽くしてこのフタの町の自由と平和を取り戻したい。皆様にも是非協力して頂いて、新しい時代を私達の手で築きましよう。

店長 当たり前よ。ここは俺達の町だ。トルコの言いなりにはならねえ。

ヤスミーナ そうよ。だけど何でいつもトルコのせいでこんな目に遇わなきやならないのさ。え、私達が何をしたつて言うんだ。相次いで食糧調達船襲われて、戦争つて奴はいつも私ら市民が被害者で、戦争やつてる当事者はやりたいたい放題やつてるつてのにさ。人が汗水垂らして作ったもん、奪つたり壊したりすること

しか能なくせに、人殺せば勲章が出るんだから。真面目に働いてる者がバカ見過ぎよ。

店長 悔しいのはわかる。だがよ、連合軍だつてもうそこまで来てるんだ。大丈夫さ大丈夫。

ビート すいません。

コルシツキ 何謝つてんだよ。あんたはウィーンを救つた人間だろ。オイゲン公やポーランド国王と共に戦つたんだ。あんたは偉いよ。それに、エルジエーベトさんだつて？ ずっと護りながらここまで逃げてきたんだ。大した男だよ。

ビート そうだ、エルジエーベト。エルジエーベトは？ (咳き込む)

ミルカ ほら無理しちゃ駄目。ちゃんといるよ、エルジエーベトさん。外でお医者様と話をしたよ。

ベンチに医者とエルジエーベト。

医者 あれからそんなになるんですね。

エルジエーベト ええ、まさかこんな形であなたとお会いできるとは。

医者 名前は確か、ええと…。

エルジエーベト エルジエーベトです。

医者 あの時の僕は、この世にいる心地がしませんでしたから。凄い顔してたでしょう。

エルジエーベト いえ、男の人の決つて、普通は嫌だけど、でも何故か男らしくつたわ。お医者様だったんですね。それで…。

医者 ええ。あの日も自分の患者を亡くしたんです。

エルジエーベト 人のためになさるお仕事つていうのは大変だと思います。あの後どちらへ？

医者 転々と。いろいろな国を。でも、どういつ訳か、あの日以来ドウの流れる所へしか行けなくて。この川見ると何だか貴女に励まされてるような気がして。

エルジエーベト 私は何も…。

医者 でもあの時の言葉のお陰で僕は今こうして医者も続けていられます。…そうだ、これ。

医者、エルジエーベトにハンカチを渡す。

エルジエーベト ずっと持ってらしたんですか？

医者 あの、僕、エル…。

エルジエーベト そろそろ冷えてきましたし。店の中へ戻りましょう。

医者 あの人のことが心配ですし。私はもう少し外に。

エルジエーベト、店に入る。

医者 エルジエーベト。…君の名前、ずっと覚えていたんだ。

医者去る。店には店長、ミルカ、ビートとエルジエーベト。

ビート エルジエーベト？

エルジエーベト ビート。目が覚めたのね。

ビート ああ、何とか助かつたよ。でも当分水はごめんだよ。

ミルカ どつちかつて言つと、ビートさんの方が守つてもらつてるみたいね。

店長 そんなことないよな、青年。それよりおふたりさん、今晚どうやって過ごすつもりなんだい？

ビート え？ それは…。(テレる)

店長 何テレてんだ。勘違いすんな。そうじゃなくて、泊まる所はあるのかつて聞いてんだよ。全く若いつてのはいいなえ。

エルジエーベト 泊まる所…、考えてもいませんでした。ビート？

ビート、首を横に振る。

店長 だと思つたよ。ほれ。

店長、ビートに鍵を投げる。

店長 空き部屋があるんだ。ボロだが、壁と屋根があるだけまだら。青年はその部屋。エルジエーベトさんは…。

ミルカ 私の部屋で一緒に寝ない？

エルジエーベト え？ でもよろしいんですの？

ド・ミ よろしいんですの。

ビート 本当、何から何まですいません。気にすることないわ。ただ鍵だけは忘れずにかけること。うちで飼つてる野獣、性別に見境なく襲いに行くから。

店長 そいつは怖いな。で、それは一

体誰なんだ？

ミルカ 鈍感な人のこと。さあ、エルジエーベトさん、案内するわ。

ミルカ、隣の民家にエルジエーベトを案内し、扉の中に入る。

店長 綺麗な人だな。

ビート ええ、私には勿体無い女性だともみんな言います。

店長 …腹、減つてるんじゃないか？

ビート え？ あ、そう言われてみれば。だろ。そうだと思つたんだ。いや、俺もなんだ。ここで普通なら食物作つてやりたいところなんだが、さっきも言つたように食糧が届いてなくて。

ミルカ キャー！

店長 ミルカ？

扉からミルカがコルシツキを蹴り出して現れる。

ミルカ この変態！

コルシツキ ごめんなさいったら！

店長 おっさん、何やつてるんだ。コルシツキ いや、ミルカちゃんの生活実態調査を。いや、万が一、トルコ兵が忍び込んでたら危険だよ。

店長 ヨーロッパ中の人間に代弁して言つてやるよ。ためえの方がよっぽど危険だ。怒鳴つたら余計腹減つた。コルシツキ、ためえウィーンの商才だろつが。何とかしろ。

コルシツキ そんなの無理だ。

ヤスミーナ、登場

店長 ヤスミーナ、新しい食糧調達船
どうだった？

ヤスミーナ、首を横に振る。

ビート おかしいですね。今日、明日中
には連合軍もブタに入るはずな
のに。ちよっと様子見てきます。

ビート、去る。ヤスミーナ、コルシツ
キのスポンのポケットをじっと見てい
る。

ヤスミーナ コルシツキ、何それ？

コルシツキ ん？ 何でもない。

ヤスミーナ 何でもないって、何か隠し
たでしょう。見せなさいよ。

店長 食い物が？

ミルカ コルシツキさん、ひとりで食べ

ようなんて狡い。

コルシツキ これは俺のもんだ。

ヤスミーナ 金持ちが昔からケチと相場
が決まっているけど。ふん、腕づ
くでも取ってやる。

コルシツキ、無言の袋叩きに合っ

ヤスミーナ 一体、何を隠してたんだい。

(ポケットを探る)ひとりで食
べようなんて十年……

ミルカ それ、私の肌着。

コルシツキ、無言の袋叩きに合っ

コルシツキ 畜生！ これもみんなトル
コが悪いんだ！

ヤスミーナ あんたが悪いんだろ。ああ、
動いたからもう駄目だ。

ミルカ いっそ、このまま王子様でも現
れて、私を攫って。

店長 お爺様？

ミルカ 王子様！ 白馬に乗って助けて
くれるんだから。ほら、あそ
こ！

客席奥から竹で作った白馬に跨った将
軍徳川吉宗登場。

ミルカ あれ？

吉宗、軽快な音楽に合わせ、踊りなが
ら舞台へ。全員、呆然としている。

吉宗 どお！（馬を止める）何かお困
りの様子。どのような悩みか存
じませんが、拙者、一国の政を
扱っておる身分、現在目下放浪
の旅の途中でござるが、そのよ
うな町の苦しみを役職柄見て見
ぬ振りを致す訳に参加らず、無礼
とは承知ながら、先程から話を
聞かせてもらった。にしてもお
ぬしら、なかなか風変わりな出
太刀にござるな。

コルシツキ あんただるつが！ あんた
の方がよっぽど。

ヤスミーナ 一国の政って言ったわね。
何処の国から来たんだい？

吉宗 拙者この地より遙か東は日出づ
る国より参上仕った。

ミルカ それって私、学校で習ったこと
がある。ほら、マルコポーロと
かいっ人の書いた東方見聞録に
出てくる……

ヤ・ミ・コ 黄金の国、ジバンゲ！

吉宗 いや、違うぞ。拙者の祖国は日
本と言つて。

店長 何だ、ジバンゲじゃねえのか。

吉宗 拙者もそのジバンゲなる国を探
し求めて旅をしておったのでご
ざるが。そう、海を越え、大陸
を進み、親切なモンゴル人に馬
の世話までしてもらい、広大な
砂漠を彷徨っておったのでござ
るが。

ミルカ じゃあ、どうしてこんな所まで
来たの？

吉宗 急に腹が減つてな。

店長 腹が減つたら何でここまで来る
んだ？

吉宗 いや、だから、『ハンガリー？
(カップヌードルのCM風)』つ
て。

コルシツキ それってハングリーじゃ……

聞

店長 それがしたくてわざわざ日本く
んだりから来たんじゃないやだろ
うな。ったく、変な奴だよ。男
のくせにスカートなんか穿い
て。

吉宗 いや、こいつはスカートではご
ざらん。袴と申して。

ヤスミーナ やっぱオカマなんじゃな
いの。

吉宗 オカマではない！ 袴！

ミルカ で、拙者さんはどうしてこの町
に？

吉宗 拙者は拙者という名ではござら
ん！ ちゃんとした名前があ
るぞ。拙者徳川幕府第八代征夷
大将軍徳川吉宗公なるぞ。

店長 長い名前だな。拙者徳川幕府……

吉宗 そこは名前ではござらん！ 徳
川吉宗！ もう、控え、控え！
コルシツキ そんな威張んなよ。水戸黄
門じゃあるまいし。

吉宗 拙者は光圀より偉いの！ あつ
ちは副將軍、こっちは將軍！
オホン、で、だ。何かお困りの
様子と伺つが。

店長 こればかりはいくらあんたが
將軍だつて言つても、どうにも
なんねえよ。…食い物がねえん
だ。最近滅多やたらに盗賊が出
没して、おまけにこの町の間
人は殆ど自分の町捨てて何処かに
行つちまうしよ。金があったつ
て、それを売ってくれる店がな
いんじやどうしようもねえ。ブ
タに残ってる奴はみんな飢えて
る。このまま死んでしまひそう
だ。え？ 一国の政ってんなら
どうだ。この悩み、解決できる
か？

吉宗 当たり前。フフフ。こう見えて
も拙者、祖国日本では米將軍と
まで呼ばれた男。

ヤ・ミ・コ 聞いたことないな。

店長 知らね。

吉宗 …。暴れん坊將軍とも…。

ミルカ それだったら有名じゃない。ほ

ら、あの町人だろうが代官だろ
うが片っ端から斬ってくお侍さ
んでしょ？

吉宗 酷い言われ様でござる。まあよ

かるう。とにかく拙者は米將軍。
食糧問題にかけては、まるで生
物学者にフナの肛門の位置を尋
ねるようなものだ。

コルシツキ 全然わからん喩えた。

吉宗 では早速城へ戻って米を取りに
行ってくるでしょう。ドオド
オ！ ライスシャワー！

吉宗、馬に跨り、去ろうとする。

店長 ちょっと待て。今、何て言っ
た？

吉宗 …。ライスシャワー。

店長 そうじゃねえよ、その前。今か
ら馬乗って何処まで行くんだ
よ。

吉宗 ちょっと、江戸まで。

店長 そんなの何年かかるかわからん
だろ。今食い物が必要なんだよ。

コルシツキ ったく、全然役に立ってな
いじゃないか。このバカ殿。

吉宗、馬を落とす。

吉宗 バ、バカトノオ？ むう。許さ
ぬ。

吉宗、刀を抜く。

吉宗 質素、儉約うううう！

吉宗、縦横無尽に斬りかかる。

4人 うわあああ！

吉宗 目安箱！

4人 うわあああ！

吉宗 公學方御定書！

4人 うわあああ！

吉宗 洋書の漢訳本輸入の制限の緩
和！（以下適当に続く）

ヤスミーナ 何なのこれ。何とかしな
さい、コルシツキ！

コルシツキ そんなこと言ったって、何
で俺なの！ 畜生！ 食うもん
食ってねえから力が出ないよ。
これも全てトルコが悪いんだ。

吉宗、刀を鞘に収める。

吉宗 そいつは踏んだり蹴ったりだ
な。

4人 てめえが言うな！

吉宗 やはり長旅のせいか、疲れが溜
まっておるわ。股スレはするわ、
喉は渴くわ。その方、すまんが
茶を持て。

ヤスミーナ 何言ってるんだ、偉そうに。
喉が灼けつくように渴く。（刀
を鞘から抜きかける）

吉宗 ヤスミーナ ああもう。
娘、すまぬが肩を揉んでくれ
ぬか。

吉宗 何で私が。
肩が凍てつくように凝る。（刀
を鞘から抜きかける）

ミルカ は、はい。

ミルカ は、はい。

店長 おい、吉宗。

吉宗 様だ。

店長 折角飲み屋に来てそれはね
えだろ。もっと高いの注文して
くれよ。

吉宗 そうか、わかった。茶を持て！

店長 音程じゃねえよ。高価なワイン
とかウイスキーとか、あんた將
軍だろ。金持ってるんだろ。

吉宗 ほう、察するところにはそうか。
これが世に言う南蛮風大衆居酒屋
でござるな。

店長 世間一般ではバブって言うてる
よ。

吉宗 そうか拙者勘違いをしておっ
た。わが国の茶店と同じやうに
考えておったわ。ははは。やり
直す。

吉宗 去る。

ミルカ やり直す？

吉宗、西部劇風の音楽に合わせて登場
西部劇のガンマンがしてそんな帽子を
被っている。

吉宗 相変らずシケた面してやが
ん、マスター！

店長、自分に言われてるとわかると慌
てて、カウンターに入り、シェーカー
を振る真似。

店長 また黄金稼いだんだって？ 今
度は幾らだい。

吉宗、指を三本立てる。

店長 そいつは凄えな、三万ドルかい。

吉宗 三十両だ。マスターいつもの奴
頼むよ。なめこ汁2フィンガー
だ。

いつの間にか、コルシツキがカウンタ
ーの端に立っていて、吉宗の前にグラ
スを滑らす真似。吉宗、それを受ける
真似。

吉宗 おう、保安官。

コルシツキ 僕の奢りだ。いつこっち着
いたんだ、マッホーニー。

吉宗 今朝だ。

コルシツキ なあ、そろそろ危ねえ稼業
から足洗って、バツツつけな
か。

吉宗 またその話が。生憎、俺ア、型
にはまるのがでえ嫌えなんだ。
保安官だけはコメンだせ、痛
殴る。

ヤスミーナ、コルシツキを吉宗の馬で
殴る。

ヤスミーナ どっちにしたって勘違いし
てるじゃないのさ。

吉宗 今、拙者の馬でぶたなかつた
か？

ヤスミーナ 気のせいよ。

ミルカ 一体何がしたかったんだろ。
吉宗 すまぬ。つい乗せられて。

店長 あんただろ！ あんたから始め
たんだろが。

ピート、帰ってくる。

ビート やはりまだ来てないようです
ね。影も形も…。

ビート 吉宗と目が合った。

ビート 將軍様！

吉宗 おう、ジョルジエビツチ殿。

ビート どうしたんですか、こんな所で。

吉宗 そなたとエルジエーベト嬢を捜
しておった。どつやら無事だっ
たようだな。

ビート はい。エルジエーベトも。

店長 青年。あんた、吉宗と知り合い
だったのか。

ビート ええ。

吉宗 また呼び捨てで。

コルシツキ どういう関係だったんだ？

ビート いえ、ウィーンで私達がトルコ
軍と戦っているのを前線で協力
してくれたんです。何でも本國
ではあばれはつちやくと呼ばれ
る程の…。

吉宗 暴れん坊將軍だ！ 拙者を無視
して話をするでないわ。

店長 おつさんがいると話が進まない
んだよ。

吉宗 おつさん？ 貴様！ 天下の八
代將軍徳川吉宗をおつさんとは
無礼者。名を名乗れ。

店長 この店の第十五代店長、ドラガ
ン・ドナーウィバーだ。

吉宗 何、十五代？ 拙者は八代。八
八八八八八八。

吉宗 片膝着いて座る。

吉宗 何なりとご命令を。

店長 本当だな。本当に何でもするん
だな。じゃあ…。

コルシツキ 食い物を食わせる。ここに
いる者を腹一杯にしてみる。將
軍様ならできないことはないで
しょう。

ビート いくら何でもそれは。

吉宗 承知した。行くぞライスシャ
ワー号。それ！ん？ どうし
たんだ。何をしておる。早く動
くのだ。はあ！ どうやあ！

一同、ひとりで奇怪な行動をしている
吉宗を呆然と見ている。暫くして吉宗、
諦める様子。

吉宗

どうやらライスシャワー号はこ
機嫌斜めの様子でござる。いや
ー。残念、残念。

吉宗、その場の全員の冷たい視線が自
分に突き刺さっているのに気付く。

吉宗 あ。

ド・ヤ・ミ・コ さっさと行け！

吉宗、蹴られながら去る。ミルカにス
ポットライトが落ちる。

ミルカ

こんな風に私達はブダの町で過
ごしていたの。ブダ？ 今で言
うブダペストのこと。知らない
の？ ハンガリーの首都。でも
これって、嵐の前の静けさって

奴だったんだよね。

別の場所。トルコ兵ハキヤ、ハシンブ
ラ土手に登場。ハキヤ腹部を押さえて
いる。

ハキヤ くう。

ハシンブラ ハキヤ様。やはりこの町に
はいないのでは。

ハキヤ いいや、いるね。このブダに絶
対に。くそう、腹が疼きやがる。

ハシンブラ 下痢ですか？

ハキヤ 古傷だ。奴につけられた。

ハシンブラ 放っておいて、一度モハ
ー ちまで戻りませんか。ここはも
う殆ど市民も何処かへ逃げてし
まっついて、それに敵もそこま
で来てるんですよ。

ハキヤ ハシンブラ。俺は誰だ。

ハシンブラ ハキヤ様です。

ハキヤ わかっているなら口の利き方には
気をつけるんだ。先月も俺に意
見したあの若い奴。何て言った
っけなあ。鬱陶しかったからこ
いつだよ。(ナイフを取り出し
見つめる)へ、しかしよ。おま
えも変な女だ。女のくせに戦場
に出るわ、これだけ一緒に戦っ
てて、一度も笑ったことはない
わ。普通のそこらの女みたいに
家でちまちま編物したりしない
のか。

ハシンブラ 私がそんな女と一緒に見え
ますか。

ハキヤ へ、言いやがる。一体何考えて
んだかなあ。

ハキヤ、腹部を押さえる。

ハシンブラ もう、今日はこの辺であま
り動かない方が。

ハキヤ いいや、じき日が暮れる。それ
までに捜し出してやる。

ハキヤ、去る。

ハシンブラ 普通の女のように…ねえ。
誰が好き好んでこんな…。

ハキヤ (声のみ)ハシンブラ、早くし
ろー！

ハシンブラ はー！

ハシンブラ、去る。

店。店長がグラスを拭き、医者が酒を
飲んでいる。ビート登場

ビート あ、あの。

医者 体の方はもういいようだな。

ビート はい。何とお礼を言えばいいの
か。

医者 僕に礼なんか言われても困る。
君を助けよつと思つて助けたわ
けでもないんだからな。

ビート それでも私が君に借りができた
のは確かだ。

医者 ……そこまで言うなら酒でも奢っ
てくれ。

ビート ああ。いいとも。マスター。

店長、酒とグラスを出す。

医者 よし、乾杯しよつ。美しいエル
ジエーベトさんに、乾杯。

ビート そう言えば、さっき外でエルジエーベトと話してたらしいけど。

医者 昔の話をしていた。

ビート 知り合ってたんだ。

医者 どうだろ。

ビート いつ会ったんだい？ エルジエーベトとは。

医者 気になるかい？

ビート いや、でもこれって凄く偶然だなと思つて。

医者 君はエルジエーベトさんと知り合つて何年になる。

ビート 二年。私は彼女と二年前に出逢つた。

医者 二年前か。僕はその更に三年前だ。君が彼女の存在すら知らない頃、僕は彼女を知っていた。

ビート …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 口の達者な男は人生成功するよ。

ビート 違つ。本音で。

医者 だけど国を救える人間はもっと偉い。君は正義感が強く、誠実で優しい目をしている。

ビート 君も出世するよ。

医者 よく見たら、僕と君とて背格好似ているかもな。

ビート そうかも。

医者 器は似てても中身が全然違つがね。君は国民的英雄にして紳士、僕はただの飲んだ暮れ。

ビート …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

ビート、店長に飲み代を渡して去る。

医者 あ、酒、ごちそうさま。

ビート 店長、勘定を。

医者 バイバイ。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

医者 …。

切にしろ。先生は医者だ。その震える手で患者を診るのか？

人の命を預かっているんだ。先生に全てを託す患者の身にもなれ。それに俺の経験上、言わせ

てもらうが、酒って奴は嫌なこ

と辛い気持ち紛らそうとして飲

んでも無駄、ひとりで飲んでた

ら余計鮮明に浮き彫りになって

表れるだけだ。それに女は何も

ひとりじゃない。

事情を知らない割には、はつき

りと言つんだな。

デリー なあ、さっきの男、ビート…

ヨルジエビツチだろ？

知ってるのか？

デリー ウィーンじゃ英雄だよ。ただ、

あの男のことで妙な噂を聞いた

んだが。

ベンチにミルカとエルジエーベト。

ミルカ え？ ビートさんってウィーン

の人じゃないの？

エルジエーベト ええ。ああして今は連

合軍で働いていますが、元はイ

エニチエリの一員だったんで

す。

ミルカ じゃあ、トルコ人？

エルジエーベト いえ、ブルガリア人

です。イエニチエリっていうのは

スルタン直属の傭兵部隊のこと

で、トルコ占領下の町や村から

狩り出された男達によって構成

されているのです。彼の配属され

た部隊というのがトルコのウイ

ン

ン

ーン遠征軍総司令官カラムスタファアの親衛隊で、トルコ軍一残虐な部隊だったそうです。ムスタファアの通ったあとには、ペんぺん草しか残らないという噂が立つ程で、ピートはそんなやり方についていけず、祖国ブルガリアの再興のためにも、連合軍に寝返ったんです。ウィーンの勝利でも彼は功績を残し、私と彼の耳には幸福の近づく足音すら聞こえそうな程でした。ムスタファアに捕まるまでは、捕まったの？

ミルカ エルジエーベト はい、でも監視の隙を見て何とか逃げ出したんですが、周りを囲まれ、背後の川に……。そっか。でもいい？ このこと絶対他の人に言っちゃ駄目だよ。特にヤスミーナさんには。あのトルコのことになると目の色変わるの。トルコ人に肉親二人も殺されたんだって。

店

医者 そっか、ピートが。デリー ま、今日はもう固い話はこれくらいにして。何だありゃ？

吉宗、登場

ミルカ 將軍様、何処行つてたの？ 吉宗 相当滅入っておるようだ。空腹は理性を狂わすから。だが

皆の衆、安心するがよい。三里川上で確認したでござる。店長 確認したって？ 来たか。吉宗 食糧調達船よ！

全員、歓喜の声。

ミルカ 三里っていくら？

吉宗 十二キロメートルに候。

店長 ようし、店にある食糧全部出しちまうぜ。コルシツキ、頼む。

コルシツキ おまえら最近俺を駒使いし過ぎじゃ……。飯にもウィーンの商才と呼ば……。

店長 成金野郎は要らないと。

コルシツキ わあ。行くよ。

デリー さあ、酒もあることだし。

吉宗 今宵は派手に盛り上がるぞ。

大勢の民衆で歌や踊りの大宴会。医者は周りの賑やかさの中、ひとり暗く飲んでいるが、突然熱く歌いだす。いつの間にか深夜になっ

ていて、医者はひとり、エルジエーベトが泊まっている家屋の扉の前に立っている。

医者 こんにちは。

エルジエーベト どうしたんです？ 先生。酔ってるんですか？

医者 はい。酔ってます。

エルジエーベト 何処か具合でも？

医者 いえ。何処も。でも、この僕の生活は体によくありません。毎日飲んでばかりで。

エルジエーベト ええ、本當、そんな生活……ごめんなさい。でも、そう思われるなら、お改めになっ

た方が。手遅れなんです。よくなる見込みはないんです。……すいません。何を話すかまだ纏まらないうちに取り乱してしまつて……。何から話せばいいんだ。……その、聞いてもらえますか。でも、何を言つても怖がらないでほしいんです。

エルジエーベト ええ。

医者 この飲んだ暮れがずっと心に閉じ込めていた気持ちがあるんです。どうすれば抑えられるのかわからない程の心の動揺。でも僕には、そんな気持ちになる価値もないんです。ただ廃人のように無関心でいることしか、僕には許されてなかったのに。

エルジエーベト 何を言ってるんです。まだまだこれからじゃないですか。努力すればきつと願いは……。

医者 叶わないんです。

エルジエーベト そんな、何事もやってみなければわからないじゃ……。

医者 気持ちとは、貴女への想いなんです。

エルジエーベト ……。

医者 気にしないで下さい。僕はもう諦めますから。飯にこの荒み果てた男の愛に貴女が応えて下さるといふようなことがあったとしても、それはただ貴女を不幸にするだけです。貴女は一生悲しみ、後悔します。しかも、その飯というのが絶対に起こらないこともわかってるんです。

エルジエーベト ……。

医者 僕の話をもう少し聞いて頂ければ、それで僕にして下されることはお終いです。ただ、僕に残された一欠片の理性で、この五年間、医者としてやってこれたのは貴女の力です。これを知ってほしかったんです。貴女は僕の最後の夢でした。いつもドナウ川で水面に映るすつかり墮落した自分の姿を見ながら、しかし、その川が遠い昔の声を蘇らせるんです。思い出させるんです。もう一度僕はやり直すんだって。……だが、それは夢でした。結局何も変わってなかったんですよ。確実に僕という人間は五年を通じて墮ちていったんです。

エルジエーベト その夢は残ってないんですか。ねえ、先生。もう一度考え直して。

医者 僕は首を横に振る。

医者 僕はその夢に値しない。あなたは灰となった僕の魂に突如生命の火をつけてくれたのです。でも、この火は僕と同じで何の生氣もなく、何を照らしてくれる

むしろそのことに感謝してます。

エルジエーベト 愛がなければ先生、貴方を助けることは適わないんでしょうか。

医者、首を横に振る。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

医者 ……。

エルジエーベト ……。

わけでもなく、何の役にも立たず、ただ、徒に燃え尽きてしまっただけなんですよ。

エルジエーベト 私のせいで先生がこんなに不幸に。

医者 そんなことは絶対ない。

エルジエーベト 私に貴方のお役に立てることは何もありませんか。

医者 ひとつ約束を。

エルジエーベト 約束？

医者 今日伝えたこと、決して誰にも言わないで下さい。貴女の未来の旦那になる人にさえも。永久に貴女の胸だけにしまっておいてほしいんです。

エルジエーベト ええ。それが貴方にとって少しでも慰めになるといふのでしたら。

医者 そんな悲しい顔をしないで。僕はそんな風に思っただけ程の人間じゃない。どうせ明日になればそんな貴女の想いに相応しくない生き方しかしてないんだから。さあ、ケロっとして下さい。でも、僕の胸の中では、貴女に対してだけは永久に今のこの僕のはず。誓え外見は今ままで通りのろくでなしでも。このことだけは信じて下さい。

エルジエーベト 信じます。

医者 ありがとう。あの、もしこんな機会があればですが…。僕は貴女のためなら、また、貴女の愛する人のためならどんなことでもします。もし、お役に立つなら喜んでこの身を犠牲にするつ

もりです。さよなら。

ビートとエルジエーベトがスポットライトで浮かび上がる。

ビート 君と出逢ったのは二年前。悲しい出逢いではあったけど、それから今まで、私はいろんな感情を覚えた。でも、今それを振り返っても、たつたひとつの気持ちしか思い出せない。それは君への愛情。二年を通じてそれはとても大きくなった。今もなお、成長を続けている。エルジエーベト、私は君を愛している。

エルジエーベト それは私も同じ、ビート。二年前から私の中で貴方が生活しているの。

ビート 私のせいですと茨の道ばかり歩いてきたけれど。

エルジエーベト でも貴方がいたから、怖くなかった。

ビート 君を知らなかったら、私は一生こんな温かい時間を味わえなかった。

エルジエーベト あなたがいるから。君がいたから。…この戦いが終わったなら、エルジエーベト、ふたりの結婚式を挙げよう。

エルジエーベト 小さな教会で。白い衣裳に身を包み。

エルジエーベト 何百羽もの鳩が飛び交うその下で。

ビート ゆっくりと鐘の音が響く中で。パーズンロードを。

白い光と鐘の音に包まれ、ビート、エルジエーベトの手を取り、走り去る。吉宗登場 手には筆と短冊。

吉宗 酒飲めば、鐘が鳴るなり、ハンガリーの小さな南蛮寺。…思いつきり字余り。

ミルカ 將軍様、言われた通りウイスキー熱燗にしたよ。

どんちゃん騒ぎ。

店長 吉宗、何か歌え。

吉宗 二十五番。徳川吉宗。『夢芝居』

突然、長銃を手にしたトルコ兵が店を囲む。
トルコ兵 この店是我々トルコ軍が占領する。
逃げ惑う店の客。人一倍キヤァキヤァ叫ぶ吉宗。

兵士1 全員手を挙げる！

客 キヤァ！

兵士1 騒ぐな！ 大人しくしろ！

客 キヤァ！（収まらない）

兵士1 騒ぐな！ こら、てめえら、聞こえないのか！

ハキヤ、天に向かって発砲。騒然としていた店の客は、一瞬にして黙ってしまった。

ハキヤ 静かにしろ。両手を頭の後ろにゆっくり回せ。変な動きをしたときは容赦なく殺す。言っておくが、我々は民族思想のための

殺戮を何とも思っちゃいない。その辺はすっかり頭に叩きつけとくんだな。しかし、まだこの町にこれだけ隠れてやがったか。大概の奴は他の町に逃げたか、死体になったかなんだがな。この町は俺達の町だ。ブタの町捨ててよそへ行くわけにはいかねえんでな。そついうあんたらも、こんな所に長居してる場合じゃねーんじゃねえの。

店長 なかなか威勢がいいな。我々の前では威勢のいい奴つてのは長生きできないんだぜ。

ミルカ ちよつとトルコ人さん達。何だこのアマ。

兵士1 民族思想だか何だか知らないけどね。戦争ごっこならよそやってよ。ここは飲み屋なんだから。お客さんに迷惑がかかるでしょ。

兵士1 自分の立場よく考えた方がいいんじゃないか。あんまし調子こいたこと言ってる、その可愛い顔、綺麗な角質層にでつかい毛穴開けることになるんだぜ。

ミルカ とにかく迷惑だつて言ってるのよ。この店は危険物とベツトは持ち込み禁止なんだから。

兵士1 だつたらあれも駄目なんじゃねえのか。

ミルカ 失礼なこと言わないでよ。あれでも一応うちのお父さんなんだから。

店長 ちよ、ちよつと待て。何だそり

ハキヤ 黙ってもらおうか。おいたが過ぎるぜ。お嬢ちゃん。

ミルカ お嬢…。

ミルカ、銃口を突きつけられる。

ミルカ ……ちゃんです。

ハシンブラ この店の主は誰だ？

ハシンブラ ドラガン、呼んでるぞ。

店長 今日からコルシツキ、おまえが店長だ。

コルシツキ おい、何を。

兵士1 てめえが店長なんだな。

コルシツキ ぜ、全然俺じゃなくて、あの。

ハキヤ この店に置いてある食糧、武器を全て出せ。あと、この店の客全員をリストアップしろ。データはこと細かくな。

コルシツキ あの、俺、本当は店長じゃなくて…。

店長 リストなんか作って、何するつもりだ。

ハシンブラ この中からオスマン・トルコ皇帝の名もとイエニチエリ部隊を徴兵する。いいか、我が軍はウィーンでの敗退で戦況が非常に厳しい。兵の数も激減した。このままではウィーン占拠どころか、ブダを、この町を奪回される畏れがあるからな。今、こうして少しでも多くの戦士を狩り出し、トルコとしてはブダを拠点に盛り返しを図りたいところなんだ。そう、ブダまで敵

にやられる訳にはいかないんでね。

ヤスミーナ 何勘違いしてやがる。ブダは私らマジヤール人の町だ。さつきからトルコのためとか言ってるがな、私らの国はトルコじゃねえ。ハンガリーなんだよ。

兵士1 てめえらどいつもこいつも。

ハキヤ この奴らは早死にしたい人間が多いようだな。

ハキヤ、ヤスミーナの髪を掴み、床に投げる。

店長 ヤスミーナ！ てめえら、やめろ！ ヤスミーナに手を出すな！

ハキヤ ん？ そつか、こいつはてめえの女か。

店長 店長を羽交い絞めにするハキヤに目配せされ、兵士1、ヤスミーナを蹴る。

兵士1 やめろ。

店長 だったら抵抗するんじゃないよ。あ！ 調子に乗りやがってよ。どつだ、おっさん。自分の女ひとりも守れねえってのは、え？

店長 やめろ、やめろお！

ハキヤ 吠えんなよ。

兵士1、ヤスミーナを蹴り転がす。

店長 地獄に墮ちろ！

ハキヤ まだわかってない様だな。ここ

がそつだよ。

ビート登場。店の客の間を割って出てくる。ハシンブラ、ビートに銃を突きつける。

ハキヤ 待てハシンブラ。…おまえは。

ハキヤ 久しぶりだな、ハキヤ。

ハキヤ ジョルジェビッチ。こんな所にいたのか。何て巡りあわせだ。

ハシンブラ おい、ハシンブラ。

ハシンブラ は。

ハキヤ その親父使って店にいる全員縛

ハシンブラ かしこまりました。

ハキヤ ジョルジェビッチ。会いたかつたぜ。

ハキヤ、ビートの腹を殴る。ビート、その場に膝まづく。

回想、ハキヤとトルコ軍兵の前にしゃがみ込むエルジェーベト。エルジェーベトの表情は恐怖に慄いている。

ハキヤ うほお。こいつは特上だね。大概この村に残ってやがったのはババアかガキだっていうのに。この細くしまった足首。スラリとした足。くびれた腰。豊満な胸。

兵士2 悩ましげな歯茎。

ハキヤ おまえは歯茎に欲情するのか。ちよつと。

兵士2 ちよつと。

ハキヤ とにかく違うねえ。今までの女とは。こいつは美女狩りの甲斐

があるってもんだ。

エルジェーベト 近づかないで。大声出すわよ！

ハキヤ 無駄だ。誰も来やしないんだよ、諦めるんだな。へへへ。しかし、このまま手エつけずにハーレムに送るのも、何か勿体ねえよな。

エルジェーベト、首を横に振る。

ハキヤ 俺達にも少しぐらいお零れあってもいいよなもんだよな。

エルジェーベト、首を横に振る。

ハキヤ よし多数決だ。お零れあってもいいと思う人。

エルジェーベトひとり拳手。

ハキヤ 思わない人。

ハキヤと兵士1、拳手。

ハキヤ 三分の二以上の賛成を以って可決致しました。そういう訳だからよろしく。さて、ぼちぼち、たまらない程、やらし恥ずかしく喘いでもらいましょつか。

エルジェーベト いやあ、やめて！

ハキヤ 暴れるんじゃないよ。大人しくしろ。(兵士1) おまえ、そっち持て。

エルジェーベト いやあ、放して！

ハキヤ 放してって言われて誰が放すもん…。(兵士1) おい！ 放す

ハキヤ

ハキヤ

ハキヤ

兵士 なよ。
 兵士 は！
 ハキヤ もう逃げられんぜ。
 兵士 ハキヤ様、あの。

ハキヤの背後でビート、意識を取り戻し、立ち上がる。

ハキヤ おまえは後だ。
 兵士 そうじゃなくて。
 ビート やめる！ ハキヤ！
 ハキヤ 黙ってる！ 今、お取り込み中だ。

エルジエーエト キャー！
 ビート やめるお！
 ビート、ハキヤを突き飛ばす。

兵士 この野郎！

ビート、最小限の動作で、銃を拾おうとしている兵士の喉元をナイフで掻き切る。

ハキヤ ジョルジエビッチ、貴様ア！

銃を握り、ビートに照準を合わせている間に、ビート、その銃を掴み、銃を二人で奪い合う。空に向け発砲したと同時にハキヤ、銃を奪い返す。咄嗟にビート、ハキヤに抱きつく。ふたりの動きが止まる。暫く間があつて、ビートがゆっくり後ずさりをする。ハキヤの腹にはナイフが刺さっている。ハキヤ倒れる。

ビート…。

ビート、正気を取り戻し、ふたりの同僚が倒れているのに気付く。静寂の中、エルジエーエトのカチカチと歯が噛み合わない音が響く。

ビート これ全部私が生かしたんですか？
 エルジエーエト…。

ビート そうなんですか？ 逃げて下さい、早く！ 今の銃声を聞きつけて、仲間がやって来ます。早くここからできるだけ早く離れて下さい。

エルジエーエト…。
 ビート 早く！ しつかりするんだ。しつかりして！…大丈夫。何もまだされてなかったですよ。
 エルジエーエト…助けて。

エルジエーエト、意識を失い、ビートの胸に倒れ込む。

ビート ちよつと、お嬢さん？ お嬢さん！ 畜生！

ビート、エルジエーエトを担いで去る。
 ハキヤ、意識を取り戻す。

ハキヤ ハア…。ハア…。

ハシンブラ登場。

ハシンブラ 何ですか、今の銃声。

ハキヤに気付く。

ハシンブラ ハキヤ様！ 何があつたんですか！

ハキヤ この裏切り者がああ！ ジョルジエビッチ！

ハキヤ、スポットライトに浮かび上がる。

ハキヤ 一緒に戦ってきた仲間殺しちゃまって、自分だけ美味しい所かつさらって、顔に似合わず酷えことしやがる。そこらの悪党の方が可愛く見えなあ！

ビート、スポットライトに浮かび上がる。

ビート 死んだと思っていた。

ハキヤ あれだけ出血したんだ。俺もこりや完全にお星様だなんて思ったがな。人間っていうのはよくよくしがとく生きるようにできてるんだ二年前身に染みてそう思ったねえ。おまえもまた俺以上に茨の道を歩いてきたんだ、わかるだろう。見ないうちに瘦せたんじゃないのえのか。

ビート わかるか。

ハキヤ あの時、俺は大地が自分の血を帯びて真っ赤に染まってゆくのを見ながら、俺が味わった地獄、全部倍にしておまえに返してやるうと思つた。だがよくよく考えてみれば、おまえは裏切り者とはいえ、かつて一度は共に戦い飯を食つた仲間、戦友って奴

だつたんだよな、これがよ。俺は悪魔じゃねえ。そして皇帝の命を受けて動くひとりのイエニチエリだ。己の恨みつらみよりもまず使命を果たさねばならない。どうだ、おまえが連れ去つた女を引き渡せ。そうすれば命は助けよう。離れ離れにはなるが、二人とも生きていられるんだ。条件は犬死した同朋の命分、こつちが確実に不利なんだ。さあ、悪くない取引だぞ。女を渡すか、さもなければ死か。

ビート 何年も戦ってきた仲だ。何を考へてるかぐらい手に取るようにわかる。彼女を取り戻した後、私を殺すつもりだろ…。そうはいかない。

ハキヤ ほう…。

ビート エルジエーエトは渡さない。そして私も死なない。これが私の選択だ。

ハキヤ 面白い回答だな。…こいつは返しとくぜ。

ハキヤ、ビートの足元にナイフを転がす。

ハキヤ 仲間殺しが…。全く、正義が聞いて呆れらあ。

ビート これで、これで一体何人殺したんだ。このジョルジエビッチの家紋を、何人の血で汚した！

ハキヤ すまん、数えてない。

ハシンブラ ハキヤ様、全員縛り終えました。

ハキヤ ムスタファ様を呼べ。
 ビート まさか、ここに居るのか？

オスマン・トルコ軍、カラ・ムスタファ登場。ハキヤ達トルコ兵、姿勢を正す。

ムスタファ ご苦勞。ハキヤ、ハシンブラ。
 ハキ・ハツ は！。

ムスタファ 覚えてるぞ。ジョルジェピッチとか申したのう。イエニチエリ訓練時代目をかけておったのだがな。飼い主の手を噛んだか。残念だ。おまえは最高の番犬だったのにな。

ハキヤ この乱世での生き方、戦場でのイロハまで教えてやったこの俺まで裏切りやがって。

店長 青年。あんた、トルコ軍の人間だったのか。

ハキヤ 知らなかったのか？ おっさん。こいつは養成学校時代でも五本の指に入る実力者だったんだ。

兵士1 ずっとハキヤ様とコンビを組んで、周りの奴らには畏れられてたんだ。オスマン・トルコの翼クンと岬クンと呼ばれてた程度だ。

店長 そうだったのか。
 ムスタファ だが、実戦では使えなかった。いきなり最初の派遣で裏切り働いてトンスラか。フェミニニストなつもりか。…ハシンブラ。

ハシンブラ は。

ムスタファ この人間に使えそうな奴はいたか。

ハシンブラ いえ、領主…この男以外、戦場経験のある男はいません。

ムスタファ、縛られている店長の頸を持ち上げる。

ムスタファ こいつなんかどうだ。いい体をしている。

ハシンブラ おまえ、名前は何だ。
 店長 ドラガン・ドナーウイバー。

ハシンブラ 特技は。
 店長 料理、洗濯、その他家事全般。

ハシンブラ 銃を持った経験は？
 店長 俺は市民だ。軍人じゃねえ。

ハキヤ 聞かれたことだけ答えてりゃいいんだよ。

店長 ……ない。
 ムスタファ ならば、おまえは今日からトルコ軍隊長親衛隊食事係だ。

店長 食事係？ ちよっと待て。食事係も何も俺は…

ムスタファ 前線で生死を賭けて戦う兵士達の脇でひたすら食事を作り続けるのが仕事。ただし愛国心がなければ採用できん。トルコの忠誠の証として、ここに居る謀反人を殺して頂きたい。(兵士1に)その男の戒めを解け。

兵士1 は。
 ムスタファ その男を殺すことができた採用。しかし、それをしない場合、代わりにおまえが死ぬことになる。

ミルカ お父さん！

店長、ロープを解かれ、ナイフを渡される。

ビート ドラガンさん。どうか私を殺して下さい。迷わず私を殺すんです。

店長 そんなこと…。そんなことできる訳がないだろっ！ 喰らいやがれ！

店長、ナイフを握り締めて構え、ムスタファに向かって突進する。が、ムスタファに届く直前に銃声が鳴り、店長、大きな叫びをあげて、その場に崩れる。ハキヤ、店長に向けて放った銃を淡々と肩に掛け直す。

ムスタファ 不採用。
 ヤスミーナ ドラガン！

ムスタファ 残念だ。どいつもこいつも。次はいい返事がほしいもんだな。

ハシンブラ ムスタファ様大変です！

外に連合軍が。対岸ベストの町から数万と思われる大軍が川を越えて！
 ハキヤ 銃声が聞かれたか。
 ビート 逃げないのか。
 ムスタファ 何だあ？

ビート 連合軍。そうだ、オイゲン公の話では連合軍はドナウ川沿いに下ってくればくる程、地元の人衆が加わって、今じゃ、ウィー

ンの時とは較べものにならない人数だそうだ。それを知っている。

て、それでもこの店に籠城決め込むか。あまり得策とは思えないが。

ハキヤ そんなことはわかってる。
 ビート 逃げるんだな。今のうちに逃げまくって、イスタンブールにでも戻って体勢を整えることだ。そうしない限り、時間の問題だぞ。

ハキヤ ムスタファ様、そんな奴の言うことを聞いたら…。

ムスタファ いや、そうしよう。ありったけの食糧を馬に積むんだ。ハシンブラ、おまえはここに残れ。僕らが安全になるまでこいつを見張ってる。

ハシンブラ は。
 ムスタファ よし、おまえら行くぞ。

ムスタファ、ハキヤ、兵士1去る。

ヤスミーナ ドラガン！ (ビートに) 何故逃がした！ 何故…！

コルシツキ ヤスミーナ、彼はみんなを助けたんだよ。もしあの場で連合軍が入ってきたらどうなっていたと思う？ 奴ら逆上して、きつとこの中の誰かがまた殺されてただろう。

ヤスミーナ 許さねえ。絶対に許さねえ。トルコ軍も。あんた(ビート)も！

店長 ヤス…ミ…ナ。
 コルシツキ ドラガン、生きてたのか。

ヤスミーナ ドラゴン！
ミルカ お父さん！
店長 水を…。ハア、ハア。…水を一杯く…れ。
ミルカ 水ね。すぐ持って来る。

医者、デリー登場

医者 これは？
デリー 酷え。
ミルカ 先生。
医者 撃たれたのか？
店長 …ああ、コルシツキ。
コルシツキ 何だ。

コルシツキ 店長の口に耳を近づける。

店長 ミ(ルカ)…と、…(ヤスミー)ナを。

コルシツキ …ああ、任せろ。

店長 ヤス…ミーナ…。

店長、無念の表情を浮かべ、目を見開いたまま力尽きる。

ミルカ お父さん、水。…お父さん？
デリー 店長さん。
ミルカ お父さんー！！

ミルカ、店長に覆い被さり、号泣する。

ヤスミーナ おのれ！ 絶対、絶対許さねえ！

コルシツキ (ハシンブラに) あんたどつしてここに残ったんだ。あの男の、ムスタファの命令だから

か。…あいつ戻って来ないぞ。あんたは飼い主に捨てられたんだ。

ビート ハシンブラ。

ビート、ハシンブラの銃を奪う。ハシンブラは抵抗せず、ただ、呆然としている。

ヤスミーナ 殺すんだ。トルコ人は皆殺すのさ！

ハシンブラ 触るな！

コルシツキ ヤスミーナさん。法に任せよう。

ハシンブラ 領主様…。

ハシンブラ、連れて行かれる。

吉宗 拙者、今日まで面白おかしく暮らしてきたが、こんな憤慨したの

は生まれてはじめてだ。ヤスミーナ みんな武器を取りな。ブタを、ブタを奪い返すんだよ！

暗転。

明転。民衆蜂起を表現したダンス。追っつてから逃げるハキヤ。その行く手を封じるように立ちはだかる吉宗。

ハキヤ 畜生！ 奇るな！ 近づくな！

ムスタファ様！ ムスタファ様！ (吉宗に気づく) 貴様

は！？

暴れん坊將軍、徳川吉宗。

ハキヤ ぎゃああ！

吉宗、ハキヤを斬る。ハキヤ絶命。ソビエスキとオイゲン公、民衆を率いて登場。

ソビエスキ 起て。マジヤール人よ。故

国が呼んでいる。今こそ戦いに結果すべきとき。自由たらんか

奴隷たらんか？ 決意せよ。名譽と権利のため祖先の神に誓い

を立てん。断じて、暴君に屈することは断じてあるまじと！

民衆 おおおお！

ビート オイゲン公。

オイゲン公 ビート君。それにエルジェーベトさん。無事だったのか。

ビート はい。

ソビエスキ よかったよかった。それで將軍には会わなかったのか？

ビート 一緒です。あそこで暴れ回っているのがそつです。

ソビエスキ 相変らずだな。

オイゲン公 本当に無事でよかった。さあ。

ソビエスキ オイゲン公が心配してな。さつき近くでトルコ兵らしい影

を見たんで、もしかしたら殺されたんじゃない、って。

オイゲン公 王様なんて、ビート君はともかく、エルジェーベトに傷で

もついてたら困るってそればかり。

ビート そりゃどういう意味ですか。

エルジェーベト しかし、私達の代わりに大切な命が。

オイゲン公 そつか。

ソビエスキ 雨だ。

民衆1 雨だ！ 勝利の雨だ。神は俺達を祝福しているぞ。俺達の勝利を。ハンガリーの復活を。

民衆 ブダ！ ブダ！ ブダ！ ブダ！

ビートや民衆遠去る。医者がひとり雨に打たれて立っっている。

医者 いい雨だ。…もつと降れ。もつと、もつと激しく。何の価値もない男ひとり死なせてしまいうらいに強く降れ。…生きた心地

がしない。死ぬ勇気もない。愛する国もない。…雨よ、もつと強く降れー！

雷鳴、暗転。明転。店

暗転。店

医者 いやあ、ジョルジェビッチ君、先日は暴言を吐いてすまなかった。申し訳ないと思っ

ている。

ビート いえ、別に気にしてはいないよ。そうか、それならよかった。籍

を入れたそうだね。その、…エルジェーベトさんと。

ビート ああ。

医者 おめでとう。いやね、新居を建てたという話を聞いてね。実は

今日君に話があったのは、その言いくいことなんだが、僕を君の友達にしてほしいとい

うことなんだ。

ビート 随分改まって、何を。私はもう友達だと思っ

医者

そうか。それならよかった。その、お願いがあつてね。友達のようにみえること、時々家に遊びに行つてもいいかということとを聞きたくてね。

ビート 構わないけど、別に。

医者 そうしよっちゅうつて訳じゃない、年に何回かでもいいんだ。

ビート ああ、いいとも。

医者 いいともというのは、つまり僕にその権利をくれるということだね。じゃあ、仰々しくジョルジエビッチ君と呼んでいるのも、それもビートと変えてもいいか。

ビート あ、ああ。

医者 言いたかつたのは、そのことなんだ。それは、ビート。

医者、去る。すぐオイゲン公が登場。

オイゲン公 何だか妙な男だな。君の知り合いか、ビート君。

ビート え？ あ、オイゲン公。あの人は私の命の恩人なんです。この町まで川で流された時、助けて頂いた、友人です。

オイゲン公 君のような貴族出の人間からは一番連想しにくいタイプの友人だな。いや、悪い意味で言ったんじゃないがね。でも、あの男はマジヤール人じゃないな。

ビート はい、ジブシーだと。

オイゲン公 ジブシーか。母国と呼べる国もないんだろ。いや、私も

そういう意味ではもしかしたら彼と同じかもな。

ビート え？ だって、オイゲン公はれっきとしたフランス貴族ですよ。

オイゲン公 うむ。…これは私がウィーンに来る前のエピソードなんだがね。私がウィーンに行く行かないで国王陛下とえらくもめてね。

ビート 国王？ ルイ十四世とですか？

オイゲン公 ああ、国王は私をどうしても聖職者にさせたかつたんだ。だが私は軍人志望。真つ向から意見が対立してね。喧嘩にまでなつた。その時、ここ（この所）の一部）を引つ掻かれて。悔しかつたから、私が夜こっそりとウィーンに向かつて旅立つ前に国王の顔に落書きしてきてやつた。

ビート どんな喧嘩ですか。

オイゲン公 私はウィーンで苦しんでる市民の話を聞いてウィーンに駆けつけずにはいられなかつた。そして今、ウィーンと、この町ブダを見てきたが、何ていうのか、みんな目が違う。そう汗水垂らして働くことを放棄し、ただ貧しい者からの税金で楽しんで暮らしているフランス貴族とはね。活きた生き方をしている。苦しいのがいつていうわけではないが、でも怖れるものがこの町ブダにはあると思う。そうだ、こんなことを言いに来たんだ。

じゃないんだ。ビート君、ウィーンに戻るんだ。

ビート へ？

オイゲン公 皇帝直々のお呼びだそつだ。私も詳しいことは知らないんだが、たぶん皇帝のことだから。…（皇帝の真似で）ご苦労であつたビート君、オーストリアのためウィーンを救つてくれて。褒美を取らず。何なりと申してみい、なんてな。

ビート しかし、それじゃ前線の方が。

モハーチの方まで奪回する準備が着実に進んでいるのに。

オイゲン公 私とソビエスキ様に任せておけばよい。

ビート はあ、わかりました。

ビート去る。その後をオイゲン公が去るが、直前、不敵な笑みを残していく。闇の中、小さな光がミルカとヤスミナを照らす。

ミルカ お父さん…。

ヤスミナ ドラガン、あんたの敵、今そつちに送つたよ。待つてな。あとひとり残つてるから。あの男、ビートとか言つたね。元トルコ軍だつたとは。敵逃がしやつてよ。あいつも同罪だ。

続いて光はコルシツキを照らす。

コルシツキ 子供の頃に語つた言葉覚えてるか。お互い店長になつて、どつちが先に二号店出すか競争

つて言つてたの。これじゃ勝負になんねえな。

光はデリーと医者を照らす。

デリー どう思う、ドクター。

医者 オイゲン公が…ウィーン？ わかつた。エルジェーベトを頼む。

光は吉宗を照らす。

吉宗 早く江戸に帰りたい。

光はビートを照らす。

ビート エルジェーベト。ウィーンに帰つて来たら二人で、いや、三人でゆっくり暮らそう。私と、エルジェーベトと、新しい命…。

オーストリア帝国の役人登場。

役人 あなたがビート＝ジョルジエビツチさんですね。

ビート はい。

役人 少しお伺いしたいことがあるのでいらして頂けますか。外に馬車を待たせてあります。

ビート 君は誰だ。それも来て頂ければわかります。

ビート 待て。言わないと私もここを動かない。

役人 そうですか。私はわかる方のご命令であなたを逮捕しなければなりません。

ピート ある方？
役人 申しましょう。オーストリア皇帝です。

ピート 何？ それなら聞いているけど、それにしてもどつしてこんな扱いを受けなくてはならないんだ。私は……

役人 あなたは先日、ブダでトルコ軍最重要人物カラムスタファを、実に個人的判断で逃がしたそう

で。
ピート 違う！ あれは、あの時はそう

じゃないと……
役人 そういうことは裁判で主張して

下さい。私はただ、あなたを逮捕することだけを言われているので。
ピート 放せ！ 放すんだ！

ピート、役人に連れ去られる。
ピートの家の玄関先。深夜、デリーが扉を叩いている。

デリー (ヒソヒソ声で) エルジエーベトさん。

扉が開く。エルジエーベト、警戒しながら、顔を現す。

エルジエーベト ビリーさん。

デリー デリーです。いえ、そんなこと

より、ピートさんは？
エルジエーベト いえ、ここには、ウイ

ーンに行くって言ってました

が。
デリー しまった。行った後か。あの、

そのピートさんなんですが、実は……

コルシツキ登場。

コルシツキ おや、あなたはいつかの。

デリー おお、人工呼吸の人。あなたウ

ィーンの人でしたわ。お願いがあるんです。エルジエーベトさんとウィーンに来てくれませんか。

エルジエーベト どうしたんです？
デリー 実は、ピートさんが反逆罪で捕

まされたかも知れないんです。
オーストリア帝国の役人を大勢の民衆が囲んでいる。ソビエスキの姿もある。

役人 いやあ、諸君。よくぞここまで

戦った。皇帝陛下も大いに喜んでおられたぞ。

民衆 A 何言ってるんだ。俺達は俺達のために戦ったんだ。なあ、みんな

民衆 B ああそうだ。これでやっと、自分の国で酒が飲めるんだ。

民衆 A さあ、帰って勝利の杯を交わそう。

役人 残念ですが、あなた方の喜んでる様には参りませんよ。この町

ブダはこれからオスマン＝トルコと正式が結ばれるまで、また結ばれた後もおそらく我がオーストリア帝国の治めるところとなるのです。

民衆 A 何だって？

役人 何だか皆さん、揃いも揃って動

員しているようですが。
民衆 B そりゃどういふことだよ。

民衆 A ふざけてるんだったらよしてくれよ。折角人がこうして盛り上が

っているのを冷ましやがって。役人 ふざけているのはどつちですか

な。でもし仮にこの国がハンガリーとして復活するとして、

誰がハンガリーの王になるんです？ 王冠を持っているのは我

らがハプスブルク皇帝、そうでは

ありませんでしたか？ 二〇〇年前にハンガリーはトルコに敗

れ、その時にあなたの国の王様は戦死して後継ぎがなく、王冠

はそのままオーストリアに渡った。ならば今、この国を治める

べき人物はハプスブルク皇帝。つまりハンガリーはオーストリアのものだと言っているんです

よ。
民衆 B そんなの認められるか。俺達は自由を手に入れたんだ。そんな

戯言二度言ってみろ。無事では帰さんぞ。ポーランドの王様、何とか言ってくれ。
役人 おっと、私はただある人の命令でここに来たんです。そういうことは主に申して下さい。
民衆 A 主だあ？ 誰だ、吐け。真実かどうか、そいつから直接聞いてやる。
オイゲン公登場

オイゲン公 本当ですよ。
民衆 B オイゲン公。

オイゲン公 彼の言ったことは真実です。だってそうでしょう。国を治めるのが王。その王は、今やオーストリアにその権利があるんだ。常識から考えれば一目瞭然

だと思っんですがね。
ソビエスキ オイゲン公。君は彼らの独立のために戦ったんじゃないのか。

オイゲン公 そんなことして、誰が私に報酬を？ マジャール人ですか？

ソビエスキ じゃあ何故一緒に戦ったんだ。民衆を勝利に導いて。

オイゲン公 そういふ風に見えましたか。私が民衆と？ 下らない冗談は

よしてもらいたいですなあ。言ってみれば民衆なぞチエスの駒

なんです。私が勝利を治めるために使用したただの駒。私が

オーストリア皇帝から褒美をいただくための、私がウィーン市民に英雄と呼ばれるためのね。

ソビエスキ マジャール人の、ブダの英雄じゃだめなのか。
オイゲン公 田舎者に支持されて嬉しいのは、所詮権力のない国の王くらいじゃないんですか？

ソビエスキ 余のことまで侮辱する気が。オイゲン公 おっとそのようなことは

は毛頭ございませぬ。フッフ、どうやら私はこの町の人間には嫌われた様子。行くでしょう。

オイゲン公去る。暗転。

明転。舞台はウィーンの法廷。ビート、手を後ろで縛られ、中央に立たされている。

ビート 無実です。逃がしたのは市民を

守るため。実際トルコ軍の手によって店の中でひとり殺されたんです。ほかに方法がなかった！

役人 ムスタファを逃したことがどう

いうことかわかって言ってるんですか。あの男は軍を使って、何万ものマジヤール人を死に追いやったんだ。そして、この男

ビート 私はトルコに加担なぞしてない

い。ほざけ。てめえもトルコ人だろ

市民1 トルコの言うことなんて

聞くな。即刻死刑だ！

市民 死刑！ 死刑！ 死刑！ 死

刑！ 死刑！

ビート 私は断じてトルコ人ではない！

私は、私はブルガリア人です。それも同じことでしょうが。トルコ軍にいたことには変わりはないんですからねえ。

ビート 私の家はトルコの侵入によって

滅んだ、ブルガリアのルメリア辺境伯です。トルコにそれ以来ずっと虐げられ、イエニチェリに無理矢理入れられ戦ってきたけど、いつだって私は一族の屈

辱を忘れたことはない。ただひたすらトルコへの報復の日を待っていたんだ。一族の浮かばれない思いのために。

ビート、懐からナイフを取り出す。

ビート 見よ！ これが我が一族ジョル

ジェビツチ家の家紋だ。これでもまだ私がトルコ軍に加担したと思っんですか？ ブルガリア貴族の証。この紋章に誓う。私は無実です。私を家内のもとに帰して下さい。

ソビエスキ ジョルジェビツチ君は無罪だ。ウィーンやブダを救った英雄なんだからな。

ヤスミーナ その紋章……

ヤスミーナ登場。

ビート ヤスミーナさん。

ヤスミーナ その紋章、あんただったの

かい。私はこの男をたった今から私の家族を皆殺しにした罪で告訴する。私の名はヤスミーナ。マジヤール人です。私はこの男を訴えたいのですが、その前に聞いてくれますか。悲しい物語を。私には父と母と姉がいた。

ブダで貧しいながらも何とか家族4人やっていって。幸福とは言えなかったけど、それでもこの後訪れた不幸に較べれば、いや、較べられないよ。一体この一家に何が起こったと思う？

トルコがウィーンへ攻める途中に私の家を襲ったのさ。父はただでさえ貧しいものしか食べられなかった家族をこれ以上不幸にすまいと断固として立ち向かった。私達家族を守る父としての義務を果たすべくね。そんな

家族を奴らは……。父は奴ら全員の持った銃で体中撃ち抜かれ、母をナイフで脅し、その母の

見ている前で姉を犯し、その後短剣で首を掻き切った。そして家中漁ってあいつらは家を出た。部屋

の奥の木箱の陰で私は一部始終を聞いてた。今でも母の……、姉の叫び声が蘇るのさ。

母はその後気がふれて、ドナウ川に身を投げた。だが、死ぬ前にこう言った。水牛の紋章を

持ったトルコ兵に復讐を……。その時、私その紋章の一族を皆殺しにすることを誓ったのさ。

川岸に上げられ、風船のように膨らんだ母の変わり果てた姿をこの手に抱きしめながらね。この短剣にその紋章が刻まれている。こ

いつが全てを物語っている。貴様は死刑だ。

そうだ、死刑だ！

市民1 裁判長 判決、被告ビート＝ジョルジェビツチは二十四時間以内に死刑！

ビート 待て、待てくれ。放せ、放してくれ！ エルジーエーベトォー！

ビート、役人達に連れ去られる。

エルジーエーベト、ビート！

デリー 先生、ビート君が負けた。

医者 そうか。エルジーエーベトを頼む。

デリー わかった。

暗転。

明転。ウィーン、コルシツキの店、コルシツキと医者がいる。

コルシツキ 話って何だい、先生？

このウィーンの商オコルシツキ様に。ああ、もしかして金貸してくれてるか？ それとも食い物か？ ウィーンに帰ってくりゃこつちのもんだ。何でも相談に乗るぜ。五百万か？ 一千万か？ 遠慮しないで言ってくれ。

医者 えらく金回りがいいんだな。

コルシツキ 当たり前よ。こう見えても商売の申し子だ。今回連合軍にも寄付してるしな。貢献者には国から褒美がどっさり出るのさ。

医者 儲かるんだな。二重スパイって

奴は。

コルシツキ ……？

医者 ブダ市民と共に戦ってるかと思えば、トルコに情報を提供し、今はオーストリア帝国側にいる。次いでにもうひとつ言つて、盗賊を操り、船まで襲っていた

のもコルシツキ、あんただ。

コルシツキ 先生、面白いこと言っなあ。

なら聞く。証拠はあるのか。

医者 ありふれた台詞を吐かないでくれ。幻滅するだろう。そういうことは法廷で言うんだね。尤も言ったところで君に勝てる見込みがあるとは思えないがね。

コルシツキ …いくらほしいんだ。

医者 またつまらないことを言う。だから法廷で。

コルシツキ お願いだ。俺は死刑を免れない。誰にも言わないでくれ。頼む、何でもするから。

医者 実は君にひとつ協力してほしいことがある。

コルシツキ 話してくれ。

医者 極秘なんで他言は無用だ。いいね。

コルシツキ ああ。

医者、コルシツキに耳打ちする。

コルシツキ あんた、正気か？

医者 幸い君はオーストリア政府に顔が利く。協力するしないは君の勝手だ。じゃあ明日の朝、今言った所で。それまでは好きにするがいい。ウィーンの小才と呼ばれた君の利口さを信じてるよ。

コルシツキ、去る。すぐ後、デリー登場。

デリー コルシツキがスパイだったなんて情報よく知ってたな。

医者 それより君に協力してほしいこ

とがある。君にしかできないことだ。よく聞いてくれ。でない

と今度はエルジェーベトも危なくなるんだ。いいか明日僕とコルシツキでビートの所に行く。君は僕達の帰りを馬車で待っていてほしい。たぶんそこに酔って自分で歩くこともままならない僕が現れるはずだ。そうしたらエルジェーベトと、…僕をそこから船に乗せてほしい。いいか、何があっても僕を起さずな

じゃあ、こいつを。

デリー こいつはおまえの通行手形じゃないか。

医者 ジプシーにとつちや命より大事なもの。酔って万一落してもしたら洒落にならないだろ。じゃあ、いいね。

デリー 先生？ 先生？

医者、店を出る。

医者 エルジェーベト。約束を果たす時が来た。

暗転。

明転。ウィーンにある牢獄の門。コルシツキ、医者に肩を貸して歩いてく。

看守 コルシツキさん、今日は何の用です？

コルシツキ 面会よ面会。牢獄で商売する訳ないだろ。

看守 そりゃそうです。そちらの方

は？

コルシツキ 酔っ払い。飲み屋で偶然知り合ってた。どつしてもこの中の友達に会いたがって。

医者 会わせろ。うーん、会いたい。仕方ないですねえ。

看守 牢番、鍵を開ける。コルシツキと医者中に入り、牢番は元の位置に戻る。

コルシツキ 大丈夫だろうな。人数が減ったら、俺の命まで危なくなるんだから。俺はまだ死にたくないからな。

医者、コルシツキとビートがいて、机の上で頭を掻き巻いている。

ビート 先生、どうして？ まさか捕まったんじゃないだろうな。

医者 そうじゃない。実は君の奥さんに頼まれてね。

ビート エルジェーベトが？ どういうことだ？

医者 シッ！ 今それを説明する暇はないんだ。それより早くその服を脱いで僕を着るんだ。

ビート ここから逃げるなんてできっこない。駄目だ。君まで殺されるぞ。

医者 誰が脱獄するって？ そりゃここから逃げるなんてそれは無茶だ。そんなことや、断ればいいさ。それより靴を僕のと換え

て。

ビート みんなやろうとして失敗したんだ。

いしゃ だからもし僕がその扉から出るって言ったら嫌だって言えばいいんだ。そこに紙とペンがあるね。一言書いてくれないか。いいかい、僕の言う通りに書くんだ。

ビート、ペンを執る。

ビート 宛名は？

医者 要らない。いいか、こうだ。いつか僕があなたに話したことを覚えていますか。あなたはつきり覚えているでしょう。その言葉を果たす時が来ました。…さあ、大急ぎで。

ビート、医者と言葉通り紙に書く。

医者 …もし今、それをしなかったら、今後もう二度とそんな機会はないでしょう。もし今、それをしなかったら。

医者、懐から薬瓶と布切れを取り出し、布切れに薬を浸している。ビートの内容に異変を感じ、振り返る。瞬間、医者は布を、ビートの顔に当て、ビート倒れる。

医者 (ビートに) コルシツキ！

コルシツキ、牢の中に入って来る。

コルシツキ (倒れているビートをを見て)
何をしたんだ？

医者 いいから約束した通りあの人の
もとに連れていってくれ。早く

コルシツキ や、約束破らないでくれよ。
だ、誰かに知れたら俺が…。

医者 ああ、死ぬまで喋りはしない。

牢の門。

看守 どうしたんです？

コルシツキ いや、友人が今日首切られ
るって知って、女の子みたいに
気が失いやがって。外の馬車ま
で乗せてくれないか。

看守 はい。

コルシツキ ビートオ。…もう時間はな
いぞ、いいんだな。

コルシツキと看守、ビートを連れて去
る。

医者 頼むぞ、コルシツキ。…エルジ
エーベト、もうすぐあなたのお
へ行きますよ、僕の命。

暗転。

明転。店長の店、ミルカ、呆然として
いる。ヤスミーナ 凄いい形相で棒を持っ
て登場。

ヤスミーナ あの女は？

ミルカ え？

ヤスミーナ あの女は何処？ エルジエ
ーベトさ、いるんだろ。

ミルカ ヤスミーナさん？ 何かエルジ
エーベトさんに用なの？ 彼女
今、体壊して。

ヤスミーナ この奥だね、勝手に入るよ。

ミルカ 何をされるの？

ヤスミーナ 何する？ そんなのミルカ、
あなたの知ったことじゃない。
関係ない人間はどいてな。

ミルカ どうしたの、ヤスミーナさん。

おかしいよ、今日。

ヤスミーナ あたしはいつもこうさ。さ
あ、ここを通して。ちょっと、
通しなさいよ。

ミルカ 駄目よ。何をするかちゃんと
言つて。でなきゃ通さない。

ヤスミーナ 神の裁き。
ミルカ え？

ヤスミーナ 神の裁きをあたしが代わり
に実行するのさ。あの女のお腹
の中には邪悪な血を受け継いだ
ガキが、あの水牛の紋章ジョル
ジェビツチのガキがいるんだ。

ほら、悪い芽は早く刈り取らな
いとねえ。だからあたしが神の
代わりに始末してやるのさ。ミ
ルカどいて。

ミルカ そんな権利何処にあるの？ 人
が人を裁く権利なんて誰にもな
いわ。正気に戻つて、ヤスミー
ナさん。

ヤスミーナ 頼い！ 当然の権利じゃな
いか。あたしはあの男に家族を
殺されたんだ。それと同じこと
を奴の家族に仕返しするだけ
さ。当然の権利だろ。あの女に
あたしと同じ苦しみを与えてや

るんだよ。たったひとりで生き
てかきやならなくなった苦し
みを味わわせてやる。

エルジエーベト、扉から顔を出す。

エルジエーベト どうしたの？ ミルカ
ちゃん。

ヤスミーナ、ミルカを突き飛ばす。

ミルカ やてめ！ お願ひ！！

エルジエーベト ヤスミーナさん？

ヤスミーナ 聞こえるかい？ 新しい命
よ。おまえはね、生まれてきて
はいけないんだよ。

ミルカ エルジエーベトさん、逃げて！
エルジエーベト え？

ヤスミーナ 大丈夫さ、怖くないから。
大人しくさえいたら、あなたは
生きてられるから。

ヤスミーナ、エルジエーベトを突き倒
す。

ミルカ やめて！

ミルカ、慌てて立ち上がり、ヤスミー
ナを後ろから羽交い絞めにする。

ヤスミーナ あんたはひっこんでな。

ミルカ、ヤスミーナから棒を奪おうと
して、揉み合いになっている際、思わ
ず、棒でヤスミーナの頭を殴ってしま
う。

ヤスミーナ ミルカ。

ヤスミーナ、その場に倒れ、動かない。

ミルカ ヤスミーナさん？ ヤスミーナ
さん？

コルシツキ、デリー、眠るビートを連
れて登場。

コルシツキ さあ、お嬢ちゃん、急いで
エルジエーベトさんをお嬢ち
ゃん？

エルジエーベト ビート？
コルシツキ ミルカちゃん、何があつた
んだ？

ミルカ …。
エルジエーベト ミルカちゃんが私をヤ
スミーナさんから助けようとし
て。

コルシツキ 馬鹿な、そんな…。ミルカ
ちゃん？ …もう時間がない。
急ごう。さあ、エルジエーベト
さん、川岸に船が停めてある。
それに乗って何処でも構わない
から、とにかく早く逃げるん
だ。

エルジエーベト わかりました。
デリー こつちだ、早く。途中で私も
一緒に行こう。

コルシツキ いいか、どんなことがあつ
ても生き延びるんだ。自分の間
は一切の連絡をも寄越してはな
らないよ。いいね。

エルジエーベト はい。

エルジエーベト はい。

デリー、エルジェーベトとピートを船の方に導く。

コルシツキ 船を出せ！

ミルカ、茫然自失の様子。

コルシツキ ミルカちゃん？

ミルカ …はは、ははは、はははははははは。

ミルカの笑いが段々ヒステリックなものに変わっていく。コルシツキ、ミルカの頬を叩く。

ミルカ コル…シツキ…さん？

コルシツキ ミルカちゃん、大丈夫か？

ミルカ ヤスミーナさんを殺しちゃった。

コルシツキ エルジェーベトさんに聞いた。でも殺したんじゃない、事故だ。

ミルカ 私はこの手で。

コルシツキ 自分を責めるんじゃない。ミルカ 人は人を裁くことなんてできない。そう言うておいて私は人命をこの手にかけた。…ヤスミーナさんを。ヤスミーナさんを！…どつして死ぬのよ。また私をひとりにするの？ お母さんになつてくれると思つてたのに。どつして…どつして…

コルシツキ ……

ミルカ コルシツキさん、私を殺して。

コルシツキ ……

コルシツキ ……

ミルカ 私、ヤスミーナさんとお父さんを追っかけて三人で暮らすんだから。ずっと決めてたんだから。お願い、私を殺して。

コルシツキ ドラガンはそんなことを望んじやない。俺はあいつと約束したんだ。ミルカの面倒を見ること、この店を必ず大きくすること。あいつの最期の時に。君はあいつの娘だろ。あいつはここにいないがね、あいつの夢はまだここにあるんだ。そいつまで天国に送つてしまふのかい。二人の分も君は生きなきゃ。ミルカちゃん、それでも死ぬか？ 殺してやるつか。

ミルカ、ゆっくり首を横に振る。

ミルカ …明日、お父さんとお母さんの葬式をするわ。

コルシツキ ああ、教会の手配は俺がしよう。それが終わったら俺のところにおいで。コルシツキ様直々に商売のイロハを叩き込んでやるよ。

暗転。

暗転。暗い牢の中。医師が座っている。闇の中から物音がする。

医師 誰だ？

ハシンブラが姿を現す。

ハシンブラ そこにいるのは、領主様？

領主様ですか？ 私です。ハシンブラです。領主様も捕まってしまったのですね。さつき、この人間が反逆者がどうのこうの言つてたのを聞いてまさかとは思いましたが…。そつですか。それにしても、またやつれたみたいですよ。

医師 え？ あ、ああ。

ハシンブラ まるで店にいた時とは別人のよう…。あなた誰！？

医師 シッ！

ハシンブラ あなた店にいた医師…。どうしてあなたがここに？

医師 ちょっとわけありだね。

ハシンブラ まさか、あの人を助けため？

医師 …あの男には、生きてもらわなければならなかった。

ハシンブラ じゃあ、領主様は？

医師 今頃、船の上だ。

ハシンブラ どうして？ 一体、何のために？

医師 愛する人のためだ。

ハシンブラ 本気で言つてるの？ だつてあなたの命が危なくなるのよ。

医師 本望だ。寧ろこうなることを願つてたくらいだ。

ハシンブラ ばれる。

医師 ばれやしない。今日一日もてばいい。それより君こそ何故あの時逃げなかつたんだい？ いや、そもそも、何故僕に話し掛けてきたんだい？ だつて君達

にとつて、あの男、ピートは裏切り者だつて。

ハシンブラ 私はあのお方のことをずっと…。いつもね、表には出せないけど、見えないところであのお方を見守つていたの。わざと逃げられるようにしたり。

医師 そう。

ハシンブラ ねえ、何て名前？

医師 名前…、言わなきゃ駄目かい？

ハシンブラ …いいえ、必要ないわ。名前も国も、死ぬ前の人間には関係ないわね。

医師 ああ。…君の刑は？

ハシンブラ 今日、昼前にでも。

医師 そうか、僕もそれくらいだ。

ハシンブラ 怖く…ない？

医師 ああ。…私には怖い。

ハシンブラ そう。私は怖い。

医師 意外だな。

ハシンブラ ねえ、手、握つて。

医師、ハシンブラの手を握る。

ハシンブラ 怖い。

医師 怖くない。

ハシンブラ もうすぐこの体が私の体じゃなくなるの？

医師 だろつね。

ハシンブラ、医師に抱きつく。

ハシンブラ ねえ、もし、私の方が刑が早かつたら、私、あなたの方を振り返るから、何も怖くないんだよつて顔で、優しく微笑んでほしいの。

医師 …ああ。

ドラが鳴る。

役人 時間だ、ハシンブラ、ジョルジ
エビッチ！

客席奥にピートとエルジェーベトとデ
リー。デリー、ピートを羽交い絞めに
している。

ピート 行かせてくれ！

デリー 駄目だ、ピート君、君が行った
ら、君まで死ぬことになるんだ
ぞ！ 彼の好意を無駄にする気
か！

ピート 何故だあああ！

エルジェーベト 先生、あなたのそのお

心、確かに受け取りました。

役人 ハシンブラ。

ハシンブラ じゃあ。

医者 ああ。

ハシンブラ、去る。

医者 今、僕は人生の中で最も素晴らしい
ことをしようとしている。
今、僕は人生の中で一番幸せな
気持ちでいる。何もかも僕の中
で優しくうち溶け合っている。
とっても清々しい気分だ。こん
な朝は……初めてだ。さあ、行こ
う。

暗転。

明転。十年後。ドラガンの店。多くの
客で賑わっている。カウンターの中で

はミルカがグラスを拭いている。デリー
登場

デリー なかなか流行ってるようだな。
ミルカ デリーさん……ええ、お陰様で。
師匠の力ですよ。

デリー コルシツキ君か。あの男も大し
たもんだが、君も負けちゃいな
いよ。十年間でここまで店を大
きくするとはねえ。

ミルカ 当たり前ですよ。何たって私は
第十六代店長、ミルカ・ドナー
ウィバーですから。

高い所から見下ろすドラガンとヤスミ
ーナ。

店長 もう十年早えよ。ミルカに店長
の座は。

ヤスミーナ いいじゃないのさ。

ミルカ、ぼーっと空を見ている。

デリー どうしたんだい？
ミルカ ううん、何でもない。

店は賑わい、ミルカは忙しそうに働く。
暗転。幕。